

# BUSICOM



## BC-BS802D II

Bluetooth 2Dバーコードリーダー

ユーザーガイド

---

## 免責事項

製品をご使用前に取扱説明書をよくお読みいただき、取扱説明書に従って操作してください。  
今後のご使用のために取扱説明書を大切に保管してください。

スキャナーを解体したり、スキャナーからシリアルラベルやロゴをはがしたりしないでください。  
その場合、ビジコムの保証の対象外となります。

この取扱説明書の写真は実際の製品と内容が異なる場合がございます。本製品の修正とアップデートについて、当社は、信頼性、性能、設計の改善のためソフトウェアまたはハードウェアをいつでも予告なくアップデートすることができます。ここで告知するアップデート情報は、事前告知を行わない変更が対象です。

この取扱説明書で説明する製品が当社またはサードパーティが著作権を有するソフトウェアが含まれている場合があります。お客様は個人または法人を問わず、著作権者から書面による同意を得ていない場合、当該ソフトウェアの全体または一部を流通、改造、逆コンパイル、逆アセンブル、解読、リバースエンジニアリング、貸与、譲渡またはサブライセンスが禁止されています。

この取扱説明書は著作権を有しております。当社から書面による許可を得ていない場合、方法を問わず内容の複製、流通または利用を禁止します。

当社は上記免責事項について最終的な解釈権を有しています。

### 株式会社ビジコム

<https://www.busicom.co.jp>

Copyright ©2023 BUSICOM Co., Ltd. All Rights Reserved.

---

---

# 改訂履歴

バージョン	改訂内容	改訂日
1.0.0	初版	2022年12月16日
1.0.1	免責事項の改定	2023年06月09日

---

## 目次

改訂履歴 .....	3
はじめに .....	1
概要 .....	1
各章紹介 .....	1
アイコンについて .....	2
<b>第 1 章 使用開始 .....</b>	<b>3</b>
概要 .....	3
パッケージ開梱 .....	3
BS80 スキャナー .....	4
ボタン機能 .....	5
バッテリーの充電 .....	6
BS80 をスマートフォン/タブレットへ接続 .....	7
LED の表示 .....	9
BS80 のオン/オフ .....	10
スキャン手順 .....	10
1次元バーコードのスキャン .....	10
2次元バーコードのスキャン .....	11
<b>第 2 章 システム設定 .....</b>	<b>12</b>
概要 .....	12
バーコードプログラミング .....	12
コマンドプログラミング .....	12
プログラミングバーコード/プログラミングコマンド/機能 .....	13
プログラミングコマンドの使用 .....	13
プログラミングバーコードの使用 .....	13
イルミネーション .....	14
エイミング .....	15
電源オンブザー .....	15
読み取りブザー .....	16
読み取り音のブザーの長さ変更 .....	17

---

---

読み取り時の周波数.....	18
読み取り音の音量.....	19
バイブレーション.....	20
振動バイブレーション.....	20
スキャンモード.....	21
デコードセッションタイムアウト（センスモード時のみ有効）.....	23
読み取りタイムアウト.....	24
GS1アプリケーション識別子（AI）を括弧で囲む.....	26
GS1 アプリケーション識別子 (AI).....	27
GS1-128(UCC/EAN-128).....	28
GS1 Databar(RSS).....	28
GS1 合成(EAN・UCC合成).....	28
GS1 QR.....	29
GS1データマトリックス.....	29
GS1チェックキャラクタを送信.....	29
GS1-128(UCC/EAN-128).....	30
GS1 Databar(RSS).....	31
GS1 合成 (EAN・UCC 合成).....	32
GS1 QR.....	32
GS1 データマトリックス.....	32
感度（センサー）.....	33
バーコード別スキャン設定.....	34
デコード範囲.....	35
画像反転.....	36
読み取りエラーメッセージ.....	37
読み取りエラーメッセージを設定.....	37
電源オフ.....	38
初期設定.....	38
工場出荷時設定.....	38
カスタムデフォルト.....	39
製品情報をクエリ.....	40
製品名をクエリ.....	40
ファームウェアバージョンをクエリ.....	40
デコーダーバージョンをクエリ.....	41

---

---

Bluetoothバージョンをクエリ .....	41
ハードウェアバージョンをクエリ .....	41
製品シリアル番号をクエリ .....	41
OEMシリアル番号をクエリ .....	42
製造日をクエリ .....	42
データフォーマットバージョンをクエリ .....	42
バッテリー残量をクエリ .....	42
スキャナー時間設定 .....	43
タイムスタンプ .....	43
日付フォーマットを設定 .....	44
<b>第 3 章 USBインターフェース .....</b>	<b>45</b>
概要 .....	45
USB HIDキーボード .....	45
USB国別キーボードタイプ .....	46
Emulate ALT+Keypad .....	50
ファンクションキーマッピング .....	54
ASCIIファンクションキーマッピング表 .....	55
キーストローク間の遅延 .....	57
Caps Lock .....	58
大文字/小文字の切り替え .....	59
テンキーをエミュレート .....	60
ファストモード .....	62
ポーリングレート .....	62
USB CDC .....	65
VID/PID .....	65
<b>第 4 章 ワイヤレス通信 .....</b>	<b>66</b>
操作モード .....	66
スキャナーのペアリング情報をクリア .....	67
バッチモード .....	67
バッチモードオプション .....	67
保存したデータを送信 .....	68
フラッシュメモリに保存したデータをクエリ/クリア .....	69
同じバーコードの保存を防止 .....	70

---

---

パッチモード送信ディレイ .....	71
パッチモード用送信終了メッセージ .....	73
スキャナー名を設定 .....	74
自動電源オフタイムアウト .....	75
<b>第 5 章   バーコード（シンボロジー） .....</b>	<b>76</b>
概要 .....	76
グローバル設定 .....	76
全てのシンボロジーを有効化/無効化 .....	76
1次元シンボロジーを有効化/無効化 .....	76
2次元シンボロジーを有効化/無効化 .....	77
郵便用シンボロジーを有効化/無効化 .....	77
Code 128 .....	78
工場出荷時設定に戻す .....	78
Code 128を有効化/無効化 .....	78
Code 128の桁数を設定 .....	79
EAN-8 .....	80
工場出荷時設定に戻す .....	80
EAN-8を有効化/無効化 .....	80
チェックキャラクタを送信 .....	80
2桁のアドオンコード .....	81
5桁のアドオンコード .....	82
アドオンコードをリクエスト .....	83
EAN-8からEAN-13へ変換 .....	83
EAN-13 .....	84
工場出荷時設定に戻す .....	84
EAN-13を有効化/無効化 .....	84
チェックキャラクタを送信 .....	85
2桁のアドオンコード .....	86
5桁のアドオンコード .....	87
290で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト .....	88
378/379 で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト .....	89
414/419で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト .....	90
434/439で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト .....	91

---

---

977で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト .....	92
978で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト .....	93
979で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト .....	94
UPC-E .....	95
工場出荷時設定に戻す .....	95
UPC-Eを有効化/無効化 .....	95
チェックキャラクタを送信 .....	96
2桁のアドオンコード .....	96
5桁のアドオンコード .....	97
アドオンコードをリクエスト .....	98
ブリアンブルキャラクタを送信 .....	98
UPC-EからUPC-Aへ変換 .....	99
UPC-A .....	100
工場出荷時設定に戻す .....	100
UPC-Aを有効化/無効化 .....	100
チェックキャラクタを送信 .....	101
2桁のアドオンコード .....	101
5桁のアドオンコード .....	103
アドオンコードをリクエスト .....	104
ブリアンブルキャラクタを送信 .....	104
インタリーブド 2 of 5 .....	105
工場出荷時設定に戻す .....	105
インタリーブド 2 of 5 を有効化/無効化 .....	105
インタリーブド 2 of 5 の桁数を設定 .....	106
チェックキャラクタ検証 .....	107
ITF-14 .....	108
工場出荷時設定に戻す .....	108
ITF-14 を有効化/無効化 .....	108
ITF-6 .....	109
工場出荷時設定に戻す .....	109
ITF-6 を有効化/無効化 .....	109
Matrix 2 of 5 .....	110
工場出荷時設定に戻す .....	110
Matrix 2 of 5 を有効化/無効化 .....	110

---



---

Matrix 2 of 5の桁数を設定 .....	111
チェックキャラクタ検証 .....	112
Code 39 .....	113
工場出荷時設定に戻す .....	113
Code 39を有効化/無効化 .....	113
Code 39の桁数を設定 .....	114
チェックキャラクタ検証 .....	115
スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信 .....	116
Code 39フルアスキーを有効化/無効化 .....	116
Codabar .....	117
工場出荷時設定に戻す .....	117
Codabarを有効化/無効化 .....	117
Codabarの桁数を設定 .....	118
チェックキャラクタ検証 .....	119
スタートキャラクタ/ストップキャラクタ .....	120
Code 93 .....	121
工場出荷時設定に戻す .....	121
Code 93を有効化/無効化 .....	121
Code 93の桁数を設定 .....	122
チェックキャラクタ検証 .....	123
GS1-128 (UCC/EAN-128) .....	124
工場出荷時設定に戻す .....	124
GS1-128を有効化/無効化 .....	124
GS1-128の桁数を設定 .....	125
GS1 Databar (RSS) .....	126
工場出荷時設定に戻す .....	126
GS1 Databarを有効化/無効化 .....	126
アプリケーション識別子 (01) を送信 .....	127
Do Not Transmit Application Identifier “01” ” .....	127
(アプリケーション識別子 (01) を送信しない) .....	127
GS1 合成 (EAN・UCC 合成) .....	127
工場出荷時設定に戻す .....	127
GS1合成シンボルを有効化/無効化 .....	127
** Disable GS1 Composite .....	127

---

---

(GS1合成を無効化) .....	127
UPC/EAN合成を有効化/無効化 .....	128
ISBN .....	128
工場出荷時設定に戻す .....	128
ISBNを有効化/無効化 .....	128
ISBNフォーマットを設定 .....	129
ISSN .....	130
工場出荷時設定に戻す .....	130
ISSNを有効化/無効化 .....	130
インダストリアル25 .....	131
工場出荷時設定に戻す .....	131
インダストリアル 25を有効化/無効化 .....	131
インダストリアル25の長さを設定 .....	132
チェックキャラクタ検証 .....	133
PDF417 .....	134
工場出荷時設定に戻す .....	134
PDF417を有効化/無効化 .....	134
PDF417の桁数を設定 .....	135
PDF417ツインコード .....	136
白黒反転PDF417 コード .....	137
文字エンコード .....	137
PDF417 ECI出力 .....	138
Micro PDF417 .....	139
工場出荷時設定に戻す .....	139
Micro PDF417を有効化/無効化 .....	139
Micro PDF417の桁数を設定 .....	140
QR Code .....	141
工場出荷時設定に戻す .....	141
QRコードを有効化/無効化 .....	141
QRコードの桁数を設定 .....	142
QR ツインコード .....	143
白黒反転QRコード .....	144
文字エンコード .....	144
QR ECI出力 .....	145

---

---

Micro QR コード .....	146
工場出荷時設定に戻す .....	146
Micro QRコードを有効化/無効化 .....	146
Micro QRコードの桁数を設定 .....	147
Aztec .....	148
工場出荷時設定に戻す .....	148
Aztecコードを有効化/無効化 .....	148
Aztecコードの桁数を設定 .....	149
画像内の複数のバーコードを読み取り .....	150
読み取るバーコード数を設定 .....	150
文字エンコード .....	151
Aztec ECI出力 .....	152
データマトリックス .....	153
工場出荷時設定に戻す .....	153
データマトリックスを有効化/無効化 .....	153
データマトリックスの桁数を設定 .....	154
データマトリックスツインコード .....	155
長方形バーコード .....	156
白黒反転データマトリックスコード .....	156
文字エンコード .....	157
データマトリックスECI出力 .....	157
Maxicode .....	158
工場出荷時設定に戻す .....	158
Maxicodeを有効化/無効化 .....	158
Maxicodeの桁数を設定 .....	159
郵便バーコード .....	160
工場出荷時設定に戻す .....	160
郵便バーコードを有効化/無効化 .....	160
<b>第 6 章 データフォーマット .....</b>	<b>161</b>
概要 .....	161
データフォーマットを追加 .....	161
バーコードによるプログラミング .....	162
シリアルコマンドによるプログラミング .....	163

---

---

データフォーマットを有効化/無効化 .....	165
非適合エラー通知ブザー .....	167
データフォーマット選択 .....	167
シングルスキャンでデータフォーマットを切り替え .....	168
データフォーマットをクリア .....	169
データフォーマットをクエリ .....	169
<b>第 7 章 プリフィックス &amp; サフィックス .....</b>	<b>170</b>
概要 .....	170
グローバル設定 .....	170
全てのプリフィックス/サフィックスを有効化/無効化 .....	170
プリフィックスシーケンス .....	171
カスタムプリフィックス .....	171
カスタムプリフィックスを有効化/無効化 .....	171
カスタムプリフィックスを設定 .....	172
AIM IDプリフィックス .....	173
Code IDプリフィックス .....	174
全てのデフォルトのCode IDを復元 .....	175
Code IDを変更 .....	175
1次元シンボロジーのCode IDを変更 .....	176
2次元シンボロジーのCode IDを変更 .....	179
カスタムサフィックス .....	180
カスタムサフィックスを有効化/無効化 .....	180
カスタムサフィックスを設定 .....	180
データパッキング .....	181
概要 .....	181
データパッキングオプション .....	181
ストップキャラクタサフィックス .....	182
ストップキャラクタサフィックスを有効化/無効化 .....	182
ストップキャラクタサフィックスを設定 .....	183
<b>第 9 章 バッチプログラミング .....</b>	<b>184</b>
概要 .....	184
バッチコマンドを作成 .....	185
バッチバーコードを作成 .....	185

---

---

バッチバーコードを使用 .....	186
<b>付録 .....</b>	<b>187</b>
英数字バーコード .....	187
バーコードを保存/キャンセル .....	190
工場出荷時設定表 .....	191
AIM ID表 .....	200
Code ID表 .....	202
シンボロジーID表 .....	204
ASCII 表 .....	206
Unicodeキーマップ .....	210

---





#SETUPE1  
Enter Setup

## はじめに

### 概要

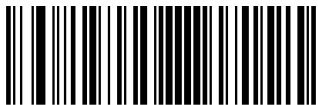
この取扱説明書ではBS80ワイヤレスバーコードスキャナー（以下、「**スキャナー**」）の設定方法と使用法を詳しく説明します。

### 各章紹介

第1章 使用開始:	BS80スキャナーの一般的特徴を説明します。
第2章 システム設定	BS80 スキャナーの3つの設定方法を紹介し、一般的なパラメータ設定について説明します。
第3章 USBインターフェース	USB通信のパラメータ設定方法について説明します。
第4章 ワイヤレス通信	スキャナーとホスト機器間のワイヤレス通信に必要なパラメータ設定方法を説明します。
第5章 バーコード（シンボロジー）	各種互換性のあるシンボロジー一覧と、関連するパラメータの設定方法について説明します。
第6章 データフォーマット	データフォーマットでスキャンデータをカスタマイズする方法を説明します。
第7章 プリフィックス & サフィックス	プリフィックスとサフィックスでスキャンデータをカスタマイズする方法について説明します。
第8章 バッチプログラミング	複雑なプログラミングタスクを一つのバーコードへと統合する方法を説明します。
付録	工場出荷時のデフォルト仕様表と、よく使用するプログラミング用バーコードを網羅しています。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

## アイコンについて



このアイコンは本書の関連事項を示しています。I



このアイコンは使用者が注意すべきことを示しています。



このアイコンはスキャナーを簡単に操作、設定できる便利なヒントを示しています。



このアイコンは操作方法を覚えるのに役立つ実例を示しています。



#SETUPE0

Exit Setup





#SETUPE1  
Enter Setup

## 第 1 章 使用開始

### 概要

BS80は画像をキャプチャして1次元/2次元スキャンエンジン搭載で様々なニーズに対応可能なワイヤレスポケットバーコードスキャナーであり、忙しい職場や限られたスペースの職場用の大規模なサーバーです。また、スキャナーはBluetooth HID、SPP、BLE通信を利用することでiOS、Android、Windowsのデバイスに対応しています。

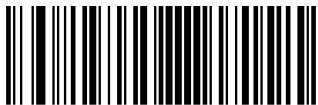
本章ではBS80スキャナーについてイラストを使って説明します。BS80スキャナーを手元にお持ちの場合、本取扱説明書内容をより具体的に理解することができます。本章の内容は一般ユーザー用、メンテナンススタッフ、およびソフトウェア開発者向けです。

### パッケージ開梱

パッケージを開けてスキャナーと付属品を取り出します。パッケージリストの同梱物が全て揃っていて不備がないか確認します。損傷や不足がある場合、パッケージを保管の上、お買い上げになった販売店のアフターサービス担当へお早めにご連絡ください。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## BS80スキャナー

1	充電/バッテリー LED	2	グッドリードLED
3	データLED	4	スキャン/電源 ボタン
5	削除/リセットボタン	6	ファンクション/ファンクション LED
7	Type-c ポート	8	充電クレードル端子
9	スキャンウィンドウ	10	製品ラベル

\*注意: スキャンウィンドウの保護フィルムをはがしてからバーコードを読み取りしてください。



#SETUPE0

Exit Setup



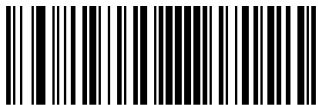
#SETUPE1  
Enter Setup

## ボタン機能

スキャン/電源ボタン
<p>*ボタンを押してバーコードをスキャンします。</p> <p>*ボタンを3秒間長押しするとスキャナーの電源がオンになります。</p>
削除/リセットボタン
<p>*以下のいずれかの状態でボタンを押すと、バーコードをスキャンして削除する前、フラッシュメモリから対応するデータを削除します。 (i) Bluetoothモードが有効であるもののBluetooth接続がされない場合、 (ii) Bluetoothモード &amp; バッチ送信が有効な場合、 (iii) USBモードが有効であるものの、USBケーブルが接続されていない場合、 (iv) USBモード &amp; バッチ送信が有効の場合。</p> <p>*ボタンを7秒間長押しするとスキャナーの電源がオフになります。</p>
ファンクションボタン
<p>*ボタンを押してBluetoothモードで接続しているiOSデバイスのHIDキーボードをオン/オフします。</p> <p>*以下のいずれかの状態でボタンを3秒間長押しと、データ送信を開始します。 (i) Bluetoothモード &amp; バッチ送信が有効な場合、 (ii) USBが有効で、スキャナーがUSBケーブルを使ってPCに接続されている場合。</p>
スキャン/電源ボタン + ファンクションボタン
<p>*2つのボタンを同時に3秒間長押しするとBluetoothモードとUSBモードが切り替わります。</p>
削除/リセットボタン + ファンクションボタン
<p>*2つのボタンを同時に押すとBluetoothモードでスキャナーとBluetoothデバイスとのペアリングを解除し、他のBluetoothデバイスからスキャナーを検索できるようになります。</p>
スキャン/電源ボタン + 削除/リセットボタン
<p>*2つのボタンを同時に押すと充電/バッテリーLEDでバッテリー残量を確認することができます。</p> <p>*以下のいずれかの状態で2つのボタンを同時に3秒間長押しすると、フラッシュメモリのすべてのデータを削除します。</p> <p>(i) BluetoothモードでBluetooth接続がされていて、バッチ送信とデータ送信確定のリクエストが有効な場合、 (ii) USBモードが有効でUSBケーブルでコンピュータに接続されていてバッチ送信とデータ送信確定のリクエストが有効な場合、 *ボタンを7秒間長押しするとスキャナーの電源がオフになります。</p>



#SETUPE0  
Exit Setup



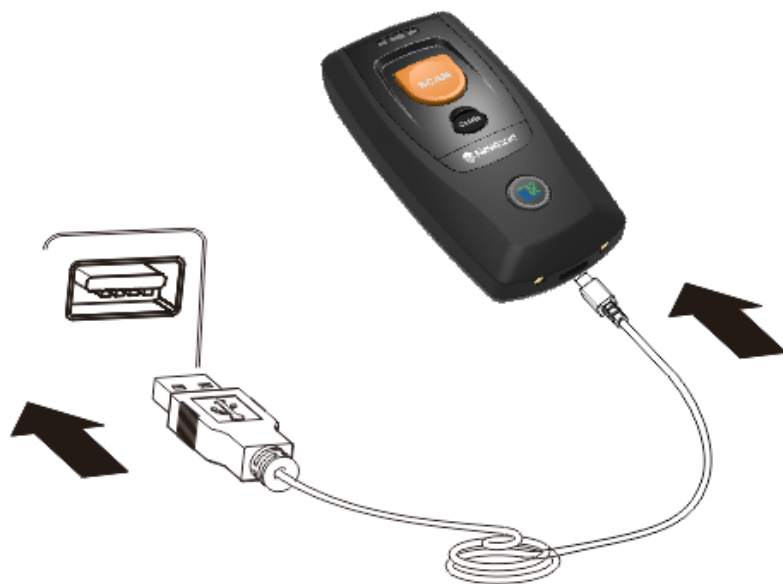
#SETUPE1

Enter Setup

---

## バッテリーの充電

以下の図のように、Type Cケーブルでホスト機器に接続してスキャナーを充電します。



注意: バッテリー残量が少ないとエラーや誤操作を引き起こす可能性があります。ご使用前に3~4時間充電してください。操作前にスキャナーが完全に充電されていることを確認してください。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## BS80 をスマートフォン/タブレットへ接続

1. ご利用のデバイスがHID、SPP、BLEプロファイルに対応していることを確認します。
2. ご利用のスマートフォン/タブレットを節電モードに切り替えます。
3. スキャナーをスマートフォン/タブレットへ接続前に以下の適切なバーコードをスキャンしてHID、SPP、BLEプロファイルを選択します。

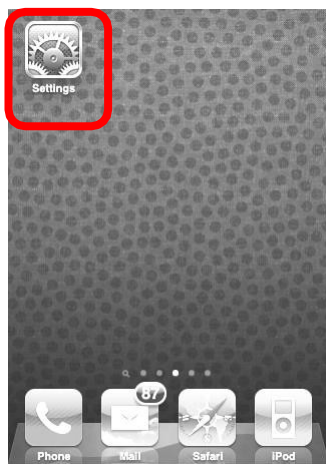
**\*\* HID**



**SPP**

**BLE**

4. 以下の接続手順を完了します (例: iPhoneとペアリング)。



(1) 「設定」をクリックします。

(2) 「一般」をクリックします。



(3) 「Bluetooth」をクリックします。

- (4) 電源をオンにして自分のiPhoneを探します。
- (5) 「BS80XXXX」を選択して接続します。
- (6) 「接続完了」と表示されると接続完了です。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup



5. 接続完了後、スキャナーに青いファンクションLEDが光ります。
6. WordPadファイルまたは関連アプリを使用前、デバイスではキーボードの言語設定が英語（アメリカ）に設定されています。次に、バーコードをスキャンすると現在のカーソル位置前にバーコードデータが表示されます。データがスマートフォン/タブレットへ送信できない場合、**Restore Factory Defaults**（工場出荷時設定に戻す）バーコードをスキャンしてください(第2章参照)。

**注意:** 本製品はBluetooth規格に準拠しています。本製品に接続するデバイスは同じSPP、HID、BLE規格へ準拠することが必要です。他のプロファイルへ対応している他のBluetoothデバイスについては、製品のテスト前の接続を保証することができません。

本製品の通信速度と距離は接続する製品とデバイス間の障害物の有無や電波の状態によって変わることがあります。また、ホスト機器の状態はスキャナーの通信速度と距離に影響する場合があります。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## LEDの表示

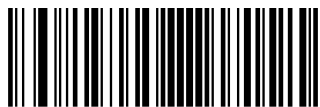
充電/バッテリー LED	
赤いLEDが発光	赤いLEDが発光
緑色のLEDが発光	緑色のLEDが発光
赤と緑のLEDが交互に点滅	赤と緑のLEDが交互に点滅
赤いLEDが点滅	赤いLEDが点滅
スキャナーの電源がオンの場合、スキャン/電源ボタンと削除/リセットボタンを同時に押すとバッテリー残量が充電/バッテリー LEDで表示されます。	
緑色のLEDが発光	緑色のLEDが発光
緑色のLEDと赤いLEDがどちらも発光	緑色のLEDと赤いLEDがどちらも発光
赤いLEDが発光	赤いLEDが発光

バッテリーの残量が少ない場合、スキャナーがブザー音を鳴らして、充電/バッテリーLEDが点滅します。スキャナーが強制終了する前にすぐに充電してください。シャットダウンした場合、電源をオンにする前に完全に充電してください。

グッドリードLED	
緑色のLEDが点滅	グッドリード
データLED	
赤いLEDが点滅	フラッシュメモリ内にデータがあります。
赤いLEDが発光	フラッシュメモリに空きがありません。
ファンクションLED	
LED OFFの状態のまま青いLEDがゆっくり点滅	Bluetoothモードが有効であるものの、Bluetooth接続がされていないため、BS80を発見することができません。
LED ONの状態のまま青いLEDがゆっくり点滅	Bluetoothモードが有効であるものの、Bluetooth接続がされているため、BS80を発見することができます。
青いLEDが発光	Bluetooth接続が完了。
青いLEDが速く点滅	Bluetooth経由のデータ送信中。
赤いLEDが発光	USBモードが有効。
赤いLEDが速く点滅	USB経由のデータ送信中。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## BS80のオン/オフ

**Turn the scanner on (スキャナーをオン) :** スキャン/電源ボタンを3秒間長押しします。

**Turn the scanner off (スキャナーをオフ) :** 初期設定で、スキャナーは30分間何も操作しない場合自動的にオフになります。電源オフタイマーを調節することができます。また、**Power Off (電源オフ)** バーコードをスキャンして電源をオフにすることもできます。詳しい情報は第2章の「自動/手動電源オフ」セクションをご覧ください。

## スキャン手順

### 1次元バーコードのスキャン

バーコード間のスキャン角度(垂直のバーコードは読み取りません)または距離を調節して、下図のようにスキャンラインの長さがおおよそバーコードよりも必ず8mmほど長くなるようにします。



Right	Wrong



#SETUPE0

Exit Setup





#SETUPE1  
Enter Setup

## 2次元バーコードのスキャン

スキャンするバーコードとスキャナーが以下の範囲に収まるように角度と距離を調節します。

1. スキャナーのスキャンラインをバーコードの中心に合わせます。
2. 最適スキャン距離: 5-20cm



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## 第2章 システム設定

### 概要

スキャナーの設定方法は、バーコードプログラミング、コマンドプログラミング、EasySetプログラミングの3種類があります。

#### バーコードプログラミング

スキャナーはプログラミングバーコードをスキャンして設定することができます。次のセクションでは、ユーザーがプログラム可能な機能/オプションをプログラミングバーコード/コマンドと一緒に説明します。

このプログラミング方法が最も簡単です。しかし、手動でバーコードのスキャンが必要です。その結果、エラーが発生しやすくなります。

#### コマンドプログラミング

スキャナーはホスト機器から送信されるシリアルコマンドで設定することもできます。

ユーザーはアプリケーションプログラムを設計して、そのコマンド文字列をスキャナーへ送信し、デバイスの設定を実行できます。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## プログラミングバーコード/プログラミングコマンド/機能



上の図は設定機能に**Enter Setup**（設定開始）機能用のプログラミングバーコードとプログラミングコマンドの例です。

1.**No Case Conversion**バーコードです。

2.**No Case Conversion**コマンドです。

3.機能/オプションの説明です。

\*\* 工場出荷時の設定を表しています。

## プログラミングコマンドの使用

バーコードプログラミングの方法以外に、スキャナーはホスト機器から受信するシリアルコマンド(HEX)で設定することもできます。コマンドは全て大文字で入力する必要があります。

## プログラミングバーコードの使用

**Enter Setup**（設定開始）バーコードをスキャンするとスキャナーの設定モードを開始できます。続いてプログラミングバーコードの数字をスキャンして、スキャナーの設定を行うことができます。設定モードを終了する場合、**Exit Setup**（設定終了）バーコードまたは非プログラミングバーコードをスキャンするか、スキャナーを再起動します。



@SETUPE0

\*\* Exit Setup（設定終了）



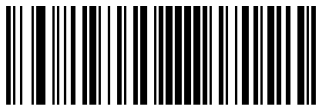
@SETUPE1

Enter Setup（設定開始）



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

プログラミングバーコードのデータ（プログラミングバーコード下の文字など）はホスト機器に送信できます。以下の適切なバーコードをスキャンして、プログラミングバーコードのデータのホスト機器への送信を有効化または無効化できます。



#SETUPT0

**\*\* Do Not Transmit Programming Barcode Data**

(プログラミングバーコードデータを送信しない)



#SETUPT1

**Transmit Programming Barcode Data**

(プログラミングバーコードデータを送信する)

## イルミネーション



@ILLSCN1

**\*\* On (オン)**



@ILLSCN0

**Off (オフ)**



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## エイミング



@AMLENA1  
\*\* On (オン)



@AMLENA0  
Off (オフ)



@AMLENA2  
Always lighting (常に発光)

## 電源オンブザー

スキャナーは電源を入れるとブザーが鳴るようにプログラムできます。電源オン時のブザーが不要な方は  
**Off** バーコードをスキャンしてください。



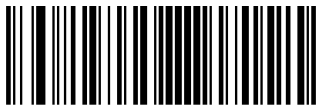
@PWBENA1  
\*\* On (オン)



@PWBENA0  
Off (オフ)



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

## 読み取りブザー

**Off** バーコードをスキャンするとデコード成功を表すブザーがオフになります。**On** バーコードをスキャンするとオンに戻ります。



@GRBENA1

**\*\* On (オン)**



@GRBENA0

**Off (オフ)**



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## 読み取り音のブザーの長さ変更

このパラメータでは、スキャナーのグッドリードブザーの長さを設定します。20msから300msまで、1ms単位で設定可能です。



@GRBDUR40

**Short (短 : 40ms)**



@GRBDUR80

**\*\* Medium (中 : 80ms)**



@GRBDUR120

**Long (長 : 120ms)**



@GRBDUR

**Custom (カスタム : 20 - 300ms)**

**E**  
xample

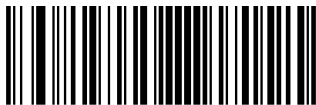
読み取り音のブザーの長さを**200ms**に設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Custom** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「2」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

### 読み取り音の周波数変更

このパラメータでは、周波数を20Hzから20,000Hzまで1Hz単位でプログラムできます。初期設定は4000Hzです。



@GRBFRQ800

**Extra Low (超低 : 800Hz)**



@GRBFRQ1600

**\*\*Medium (中 : 2620Hz)**



@GRBFRQ

**Custom (カスタム : 20 - 20,000Hz)**



@GRBFRQ1600

**Low (低 : 1600Hz)**



@GRBFRQ4200

**High (高 : 4200Hz)**

**E**  
*example*

読み取り音の周波数を2,000Hzに設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Custom**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「2」、「0」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup





#SETUPE1  
Enter Setup

## 読み取り音の音量

音量を20段階（1～20）のパラメータからお好みで設定できます。



@GRBVLL20  
\*\* Loud（大音量）



@GRBVLL12  
Medium（中音量）



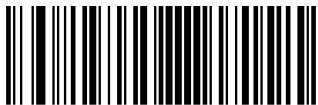
@GRBVLL5  
Low（低音量）



@GRBVLL  
Custom(カスタム : 1-20)



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

バイブレーション  
振動バイブレーション



@GRVENA1

On (オン)



@GRVENA0

\*\*Off (オフ)



#SETUPE0

Exit Setup



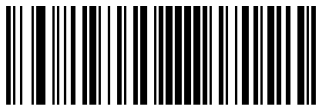
#SETUPE1  
Enter Setup

## スキャンモード

- ◇ **Level Mode (レベルモード)** : トリガーを引っ張るとデコードセッションを開始します。バーコードがデコードされるか、トリガーを離すまでデコードセッションが続きます。
- ◇ **Sense Mode (センスモード)** : スキャナーはデコードセッションは周辺のイルミネーションが切り替わるのを検知するたびに、デコードセッションが有効化される前に手振れ補正タイムアウトが切れるまで待ちます。デコードセッションはバーコードがデコードされるか、デコードセッションタイムアウトが時間切れになると終了します。このモードでは、トリガーを引くとデコードセッションを有効化できます。**Timeout between Decodes (Same Barcode)** (同じバーコードのデコード間タイムアウト) は指定の時間内に同じバーコードの不要な再読取りを防止できます。**Sensitivity (感度)** はセンスモード時の周辺のイルミネーションへの感度を変更できます。
- ◇ **Continuous Mode (連続モード)** : スキャナーが次から次へと自動的にデコードセッションを開始します。トリガーを押すだけでバーコードの読み取りを中断または再開できます。**Timeout between Decodes (Same Barcode)** (同じバーコードのデコード間タイムアウト) は指定の時間内に同じバーコードの不要な再読取りを防止できます。
- ◇ **Pulse Mode (パルスモード)** : トリガーを引っ張ってから離すと、バーコードがデコードされるか、デコードセッションタイムアウトが切れるまでスキャンは有効になります (デコードセッションタイムアウトはトリガーを離した時点で開始します)。
- ◇ **Batch Mode (バッチモード)** : トリガーを引いて離すと、スキャンはトリガーを離すまで有効です。トリガーを引いている間は、グッドリードしたバーコードはブザー音がなり、スキャン情報を出力します。デコードはトリガーを離すまで続きます。トリガーを引いている間、同じバーコードは1回のみ読み取ります。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---



@SCNMOD0

**\*\* Level Mode** (レベルモード)



@SCNMOD2

**Sense Mode** (センスモード)



@SCNMOD4

**Pulse Mode** (パルスモード)



@SCNMOD3

**Continuous Mode** (連続モード)



@SCNMOD7

**Batch Mode** (バッチモード)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## デコードセッションタイムアウト（センスモード時のみ有効）

このパラメータはスキャンを試みる間継続するデコードセッションタイムアウトの最大時間を設定します。1msから3,600,000msまで、1ms単位でプログラム可能です。0に設定するとタイムアウトは無制限になります。初期設定は3000msです。



@ORTSET

**Decode Session Timeout**  
(デコードセッションタイムアウト)

**E**  
*xample*

### デコードセッションタイムアウトを1,500msに設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Decode Session Timeout** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「5」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## 読み取りタイムアウト

読み取りタイムアウトは指定の時間内に同じバーコードを誤ってスキャンすることを防止します。この機能はセンスモードと連続モードのみ適用できます。

**Enable Reread Timeout (読み取りタイムアウトの有効化)**：スキャナーが読み取りタイムアウトが時間切れになる前に二重読み取りできなくなります。

**Disable Reread Timeout (読み取りタイムアウトの無効化)**：スキャナーは同じバーコードを二重読み取りできます。



@RRDENA1

**Enable Reread Timeout (読み取りタイムアウトの有効化)**



@RRDENA0

**\*\*Disable Reread Timeout  
(読み取りタイムアウトの無効化)**

以下のパラメータは同じバーコードを連続して読み取る際の時間間隔を設定します。0msから3,600,000msまで、1ms単位で設定可能です。3000より大きな値に設定すると、プログラミングバーコードの読み取りタイムアウトは3000msに制限されます。



@RRDDUR

**Set Reread Timeout  
(読み取りタイムアウトを設定)**

# E

  
*example*

読み取りタイムアウトを1,000msに設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Timeout between Decodes (Same Barcode) b**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「0」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

読み取りタイムアウトが時間切れになる前に直前に読み取った同じバーコードをスキャナーが二重読み取りしてしまう場合、読み取りタイムアウトを再設定できます。この機能を有効化する場合、**Reread Timeout Reset On** (読み取りタイムアウトのリセットをオン) バーコードを設定します。この機能は**Reread Timeout** が有効な場合のみ有効です。



@RRDREN1

**Reread Timeout Reset On**

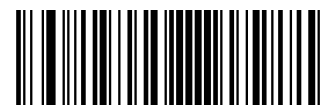
(読み取りタイムアウトのリセットをオン)



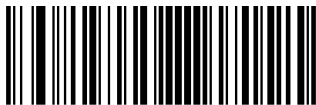
@RRDREN0

**\*\* Reread Timeout Reset Off**

(読み取りタイムアウトのリセットをオフ)



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## GS1アプリケーション識別子 (AI) を括弧で囲む

**Surround GS1 AI' s with Parentheses** (GS1アプリケーション識別子 (AI) を括弧で囲む) を選択した場合、スキャンされたデータを含むアプリケーション識別子 (AI) は出力メッセージの括弧で囲まれます。



@GS1AIP0

### \*\* Do Not Surround GS1 AI' s with Parentheses

(GS1アプリケーション識別子 (AI) を括弧で囲まない)

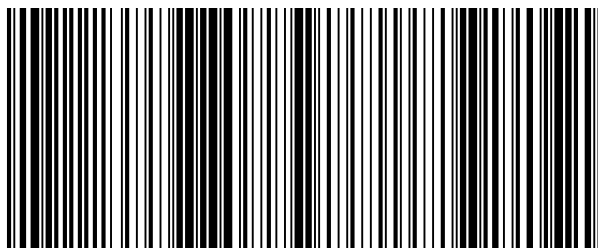


@GS1AIP1

### Surround GS1 AI' s with Parentheses

(GS1アプリケーション識別子 (AI) を括弧で囲む)

**E**  
*xample*



(01) 0 0614141 99999 6 (10) 10ABCEDF123456

**Surround GS1 AI' s with Parentheses** を選択した場合、上記のバーコードの出力内容は以下のとおりです。

(01)00614141999996(10)10ABCEDF123456

**Do Not Surround GS1 AI' s with Parentheses** を選択した場合、上記のバーコードの出力内容は以下のとおりです。

01006141419999961010ABCEDF123456.



#SETUPE0

Exit Setup





#SETUPE1  
Enter Setup

## GS1 アプリケーション識別子 (AI)



@GS10AI0

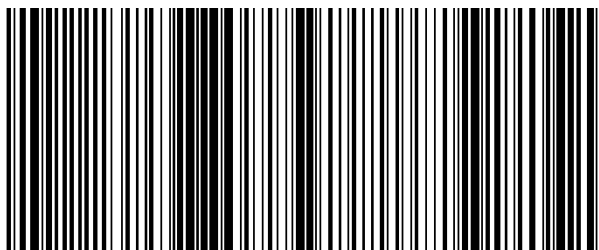
**Disable GS1 Application Identifiers (AI' s)**  
(GS1 アプリケーション識別子 (AI)を無効化)



@GS10AI1

**\*\* Enable GS1 Application Identifiers (AI' s)**  
(GS1 アプリケーション識別子 (AI)を有効化)

**E**  
*xample*



(01) 0 0614141 99999 6 (10) 10ABCEDF123456

**Enable GS1 Application Identifiers (AI' s)s** を選択した場合、上記のバーコードの出力内容は以下のとおりです。

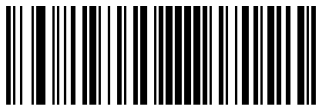
01006141419999961010ABCEDF123456

**Disable GS1 Application Identifiers (AI' s)s** を選択した場合、上記のバーコードの出力内容は以下のとおりです。

01006141419999961010ABCEDF123456



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## GS1-128(UCC/EAN-128)



@GS10A10

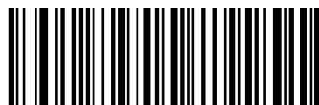
**Do not Transmit GS1 Application Identifier (GS1 AIs)**  
(GS1 アプリケーション識別子(GS1 AI)を送信しない)



@GS10A11

**\*\* Transmit GS1 Application Identifier (GS1 AIs)**  
(GS1 アプリケーション識別子(GS1 AI)を送信する)

## GS1 Databar(RSS)



@GS10AR0

**Do not Transmit GS1 Application Identifier (GS1 AIs)**  
(GS1 アプリケーション識別子(GS1 AI)を送信しない)



@GS10AR1

**\*\* Transmit GS1 Application Identifier (GS1 AIs)**  
(GS1 アプリケーション識別子(GS1 AI)を送信する)

## GS1 合成(EAN・UCC 合成)



@GS10AC0

**Do not Transmit GS1 Application Identifier (GS1 AIs)**  
(GS1 アプリケーション識別子(GS1 AI)を送信しない)



@GS10AC1

**\*\* Transmit GS1 Application Identifier (GS1 AIs)**  
(GS1 アプリケーション識別子(GS1 AI)を送信する)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## GS1 QR



@GS1OAO0

**Do not Transmit GS1 Application Identifier (GS1 AIs)**  
(GS1 アプリケーション識別子(GS1 AI)を送信しない)



@GS1OAO1

**\*\* Transmit GS1 Application Identifier (GS1 AIs)**  
(GS1 アプリケーション識別子(GS1 AI)を送信する)

## GS1 データマトリックス



@GS1OAD0

**Do not Transmit GS1 Application Identifier (GS1 AIs)**  
(GS1 アプリケーション識別子(GS1 AI)を送信しない)



@GS1OAD1

**\*\* Transmit GS1 Application Identifier (GS1 AIs)**  
(GS1 アプリケーション識別子(GS1 AI)を送信する)

## GS1チェックキャラクタを送信



@GS1OCK0

**Do not transmit GS1 Check Character**  
(GS1チェックキャラクタを送信しない)



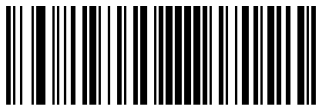
@GS1OCK1

**\*\* Transmit GS1 Check Character**  
(GS1チェックキャラクタを送信する)



#SETUPE0

Exit Setup

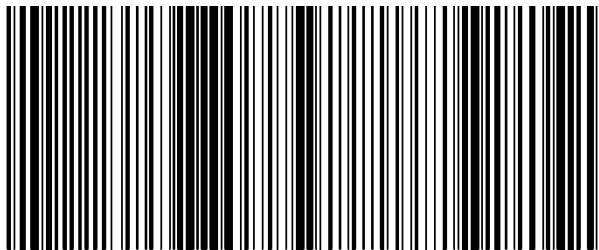


#SETUPE1

Enter Setup

---

**E**  
xample



(01) 0 0614141 99999 6 (10) 10ABCEDF123456

**Transmit GS1 Check Character** を選択した場合、上記のバーコードの出力内容は以下のとおりです。

s01006141419999961010ABCEDF123456

**Do not Transmit GS1 Check Character** を選択した場合、上記のバーコードの出力内容は以下のとおりです。

0100614141999991010ABCEDF123456

## GS1-128(UCC/EAN-128)



@GS1OC10

**Do not Transmit GS1 Check character**  
(GS1チェックキャラクタを送信しない)



@GS1OC11

**\*\* Transmit GS1 Check character**  
(GS1チェックキャラクタを送信する)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

---

## GS1 Databar(RSS)



@GS1OCR0

**Do not Transmit GS1 Check character**  
(GS1チェックキャラクタを送信しない)



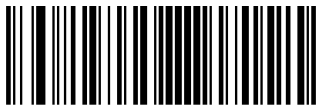
@GS1OCR1

**\*\* Transmit GS1 Check character**  
(GS1チェックキャラクタを送信する)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

## GS1 合成 (EAN·UCC 合成)



@GS1OCC0

**Do not Transmit GS1 Check character**  
(GS1チェックキャラクタを送信しない)



@GS1OCC1

**\*\* Transmit GS1 Check character**  
(GS1チェックキャラクタを送信する)

## GS1 QR



@GS1OCC0

**Do not Transmit GS1 Check character**  
(GS1チェックキャラクタを送信しない)



@GS1OCC1

**\*\* Transmit GS1 Check character**  
(GS1チェックキャラクタを送信する)

## GS1 データマトリックス



@GS1OCD0

**Do not Transmit GS1 Check character**  
(GS1チェックキャラクタを送信しない)



@GS1OCD1

**\*\* Transmit GS1 Check character**  
(GS1チェックキャラクタを送信する)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## 感度（センサー）

感度はキャプチャされた画像の変化に対するスキャナーの反応の感度を指定します。感度が高くなると、スキャナーをトリガーする画像変更の要件が低くなります。利用環境に応じた適切な感度を選択することができます。この機能はセンスモードのみ利用可能です。20段階から選択できます。初期設定は中感度（11）です。



@SENLVL14

**Low Sensitivity（低感度）**



@SENLVL11

**\*\* Medium Sensitivity（中感度）**



@SENLVL8

**High Sensitivity（高感度）**



@SENLVL5

**Enhanced Sensitivity（感度を強化）**



@SENLVL

**Custom Sensitivity（カスタム：1-20）**

**E**  
xample

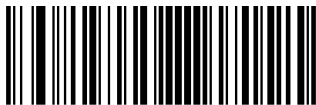
### 感度をレベル10に設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Custom Sensitivity** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

**Exit Setup**



#SETUPE1

Enter Setup

---

## バーコード別スキャン設定

**Normal Mode (通常モード)** : 紙のバーコードを読み取る際にこのモードを選択します。

**Screen Mode (液晶画面モード)** : 画面上のバーコードを読み取る際にこのモードを選択します。



@EXPLVL0

**\*\* Normal Mode (通常モード)**



@EXPLVL2

**Screen Mode (液晶画面モード)**



#SETUPE0

Exit Setup



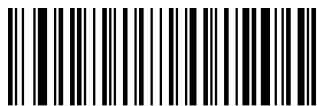


#SETUPE1  
Enter Setup

## デコード範囲

**Whole Area Decoding (全体デコード)** : スキャナーが、中心から周りへ視野内の全てのバーコードをデコードしようとし、最初にデコードしたバーコードを送信します。

**Specific Area Decoding (特定範囲をデコード)** : スキャナーが、特定のデコード範囲内のバーコードをデコードしようとし、最初にデコードしたバーコードを送信します。このオプションではスキャナーは視野を狭めてユーザーが読み取りたいバーコードを確実に読み取ることができます。例えば、複数のバーコードが互いに密接している場合、あらかじめ定義した適切なデコード範囲と共に特定の範囲をデコードすることで読み取りたいバーコードのみを読み取ります。



@CADENA0

**\*\* Whole Area Decoding (全体デコード)**



@CADENA1

**Specific Area Decoding (特定範囲をデコード)**



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

## 画像反転



@MIRROR0

**\*\* Do Not Flip** (反転しない)



@MIRROR1

**Flip Horizontally** (水平方向に反転)



@MIRROR2

**Flip Vertically** (垂直方向に反転)



@MIRROR3

**Flip Horizontally & Vertically**  
(水平&垂直方向に反転)

未反転の画像の例



水平方向に反転の画像の例



垂直方向に反転の画像の例



水平&垂直方向に反転の画像の例



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## 読み取りエラーメッセージ

以下の適切なバーコードをスキャンして、トリガーを離す前にグッドリードがされなかった場合、デコードセッションタイムアウトが時間切れの場合、スキャナーが**Stop Scanning**コマンドを受信した場合に、読み取りエラーメッセージ（ユーザーがプログラム可能）を送信するか選択します（詳細は、本章の「シリアルトリガーコマンド」セクションを参照ください）。



**\*\* Bad Read Message OFF**（読み取りエラーメッセージオフ）



**Bad Read Message ON**（読み取りエラーメッセージオン）

## 読み取りエラーメッセージを設定

読み取りエラーメッセージは、最大7文字（0x00～0xFFのHEX値）まで設定できます。読み取りエラーメッセージを設定する際、**Set Bad Read Message**（読み取りエラーメッセージの設定）バーコード、希望する文字のHEX値を表す英数字バーコード、および**Save**バーコードをスキャンします。初期設定は「NG」です。



**Set Bad Read Message**（読み取りエラーメッセージを設定）

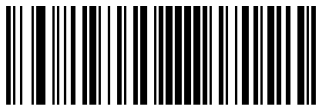
**E**  
xample

読み取りエラーメッセージを「F」（HEX: 0x46）に設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set Bad Read Message** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「4」、「6」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

電源オフ



@PWROFF

**Power Off Scanner** (スキャナーを電源オフ)

初期設定

工場出荷時設定

以下のバーコードをスキャンすると、スキャナーを工場出荷時の状態に戻すことができます。以下に該当する場合、全てのパラメータを工場出荷時の設定に戻す必要がある可能性があります。

1. スキャナーが正しく設定されていないため、バーコードの読み取りに失敗する場合。
2. 以前の設定を忘れてしまい、それによる悪影響を防止したい場合。



@FACDEF

**\*\*Restore All Factory Defaults** (全て工場出荷時設定に戻す)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## カスタムデフォルト

**Restore All Custom Defaults**（全てカスタムデフォルトに戻す）バーコードをスキャンすると、すべてのパラメータをカスタムデフォルトにリセットできます。**Save as Custom Defaults**（カスタムデフォルトとして保存）バーコードをスキャンすると、現在の設定をカスタムデフォルトとして設定できます。

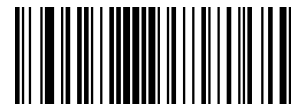
カスタムデフォルトは不揮発性メモリに保存されます。



@CUSSAV

**Save as Custom Defaults**

（カスタムデフォルトとして保存）



@CUSDEF

**Restore All Custom Defaults**

（全てカスタムデフォルトに戻す）

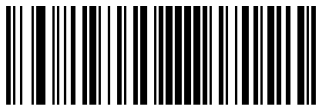


スキャナーを工場出荷状態に戻しても、カスタムデフォルトはスキャナーから削除されません。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

## 製品情報をクエリ

以下のバーコードをスキャンすると、製品情報（製品名、ファームウェアバージョン、デコーダーバージョン、ハードウェアバージョン、製品シリアル番号、OEMシリアル番号、製造日、データフォーマットバージョンなど）がホスト機器に送信されます。



@QRYSYS

**Query Product Information**

（製品情報をクエリ）

## 製品名をクエリ



@QRYPDN

**Query Product Name**

（製品名をクエリ）

## ファームウェアバージョンをクエリ



@QRYFWV

**Query Firmware Version**（ファームウェアバージョンをクエリ）



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

デコーダーバージョンをクエリ



@QRYDCV

**Query Decoder Version** (デコーダーバージョンをクエリ)

Bluetoothバージョンをクエリ



#QRYBFW

**Query Bluetooth Version** (Bluetoothバージョンをクエリ)

ハードウェアバージョンをクエリ



@QRYHWW

**Query Hardware Version** (ハードウェアバージョンをクエリ)

製品シリアル番号をクエリ

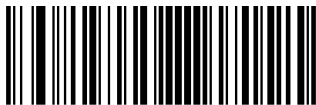


@QRYPSN

**Query Product Serial Number** (製品シリアル番号をクエリ)



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

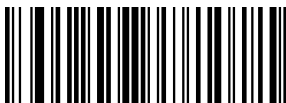
**OEMシリアル番号をクエリ**



@QRYESN

**Query OEM Serial Number (OEMシリアル番号をクエリ)**

製造日をクエリ



@QRYDAT

**Query Manufacturing Date (製造日をクエリ)**

データフォーマットバージョンをクエリ



@QRYDFM

**Query Data Formatter Version (データフォーマットバージョンをクエリ)**

バッテリー残量をクエリ



@WLSQPW

**Query Battery Level (バッテリー残量をクエリ)**



#SETUPE0

Exit Setup





#SETUPE1  
Enter Setup

## スキャナー時間設定



@WLSTMS  
**\*\* Set Scanner Time**  
(スキャナーの時間を設定)



@WLSTMQ  
**Query Scanner Time**  
(スキャナーの時間をクエリ)

## タイムスタンプ

日付を送信するか、タイムスタンプを有効化/無効化するか選択できます。



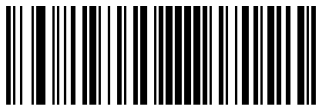
@WLSTSE0  
**\*\*Disable Time Stamp**  
(タイムスタンプを無効化)



@WLSTSE1  
**Enable Time Stamp**  
(タイムスタンプを有効化)



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

日付フォーマットを設定



@WLSTSF0

\*\* **Format 1**

(YYYY/MM/DD,HH:MM:SS)



@WLSTSF2

**Format 3**

(MM/DD/YYYY,HH:MM:SS)



@WLSTSF1

**Format 2**(DD/MM/YYYY,HH:MM:SS)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## 第3章 USBインターフェース

### 概要

USB接続用のオプションは4種類あります。

- ◇ **USB HID Keyboard (USB HIDキーボード)** : スキャナーからの送信は、USBキーボード入力としてシミュレートされ、コマンド設定やドライバーは必要ありません。バーコードデータは仮想キーボードで直接入力でき、ホスト機器によるデータ受信にも便利です。
- ◇ **USB CDC**: USB-IFが定める標準的なUSB CDCクラスの仕様に準拠しており、シリアルポートと同じようにホスト機器がデータを受信することができます。この機能を使用する場合、ドライバーが必要です。

### USB HIDキーボード

スキャナーがホスト機器のUSBポートに接続されている場合、以下のバーコードをスキャンしてUSB HIDキーボード機能を有効化することができます。スキャナーからの送信はUSBキーボード入力としてシミュレートされます。ホスト機器は仮想キーボードでのキーストロークを受け付けます。プラグ&プレイのためドライバーは必要ではありません。



@INTERF3

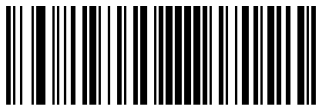
**USB HID Keyboard**  
(USB HIDキーボード)



ホスト機器がキーボード入力をできる場合、HIDキーボード入力用の追加のソフトウェアは必要ありません。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

## USB国別キーボードタイプ

キーボード配置は国によって異なります。初期設定ではアメリカのキーボードに設定されています。



@KBWCTY0

**\*\* U.S. (アメリカ、英語)**



@KBWCTY1

**Belgium (ベルギー)**



@KBWCTY2

**Brazil (ブラジル)**



@KBWCTY3

**Canada (カナダ、フランス語)**



@KBWCTY4

**Czechoslovakia (チェコ)**



@KBWCTY5

**Denmark (デンマーク)**



@KBWCTY6

**Finland (フィンランド、スウェーデン語)**



@KBWCTY7

**French (フランス)**



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup



@KBWCTY8  
**Germany/ Austria**  
(ドイツ、オーストリア)



@KBWCTY9  
**Greece (ギリシャ)**



@KBWCTY10  
**Hungary (ハンガリー)**



@KBWCTY11  
**Israel (イスラエル、ヘブライ語)**



@KBWCTY12  
**Italy (イタリア語)**



@KBWCTY13  
**Latin America/ South America**  
(ラテンアメリカ/南アメリカ)



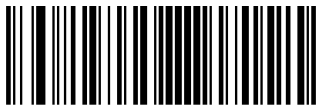
@KBWCTY14  
**Netherlands (オランダ)**



@KBWCTY15  
**Norway (ノルウェー)**



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---



@KBWCTY16

**Poland** (ポーランド)



@KBWCTY17

**Portugal** (ポルトガル)



@KBWCTY18

**Romania** (ルーマニア)



@KBWCTY19

**Russia** (ロシア)



@KBWCTY21

**Slovakia** (スロバキア)



@KBWCTY22

**Spain** (スペイン)



@KBWCTY23

**Sweden** (スウェーデン)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

---



@KBWCTY25  
**Turkey F** (トルコ、Fタイプ)



@KBWCTY27  
**Britain** (イギリス)



@KBWCTY24  
**Switzerland** (スイス、ドイツ語)



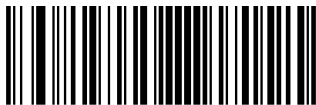
@KBWCTY26  
**Turkey Q F** (トルコ、Qタイプ)



@KBWCTY28  
**Japan** (日本)



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## Emulate ALT+Keypad

**Emulate ALT+Keypad** をオンにすると、全ての文字はテンキーを経由して送信され、USBキーボードの国タイプは見落とされます。このモードは**Code Page Option**（コードページオプション）と**Unicode Output**（Unicode出力）の設定が必要です。コードページは対象の言語を決定します。**Unicode Output**はホスト機器へのASCII入力を決定します。



@KBWALT0

**\*\* Emulate ALT+Keypad OFF**

(Emulate ALT+キーパッドをオフ)



@KBWALT1

**Emulate ALT+Keypad ON**

(Emulate ALT+キーパッドをオン)



ASCII 文字（0x00~0x1F）ファンクションキーマッピングの設定に従って入力されます。



文字の送信にはキーボードエミュレーションが含まれるため、この方法は効率が良くない可能性があります。



**Emulate ALT+Keypad** がオン、**Unicode Encoding** がオフ、**Code Page 1252 (West European Latin)** が選択されると、バーコードデータ「ADF」（65/208/70）は以下のように送信されます。

「A」 - 「ALT Make」 + 「065」 + 「ALT Break」

「D」 -- 「ALT Make」 + 「208」 + 「ALT Break」

「F」 -- 「ALT Make」 + 「070」 + 「ALT Break」



#SETUPE0

Exit Setup





#SETUPE1  
Enter Setup

## コードページ

コードページとは、文字コードと文字の対応関係を定義したものです。受信したデータが適切な文字で表示されない場合、スキャンしたバーコードはホストプログラムが想定しているコードページとは異なるコードページで作成されていることが考えられます。このような場合は、以下の適切なバーコードをスキャンして、バーコードが作成されたコードページを選択してください。PDF417、QRコード、Aztec コード、データマトリックスの場合は、コードページの設定のほかに、第6章の「文字エンコード」セクションで文字エンコードを設定する必要があります。この機能は、**Emulate ALT+Keypad** がオンになっている場合のみ有効です。初期設定はCode Page 1252(西ヨーロッパ言語)です。



@KBWCPG0

**\*\* Code Page 1252 (西ヨーロッパ言語)**



@KBWCPG1

**Code Page 1251 (キリル語)**



@KBWCPG2

**Code Page 1250 (中央・東ヨーロッパ言語)**



@KBWCPG3

**Code Page 1253 (ギリシャ語)**



@KBWCPG4

**Code Page 1254 (トルコ語)**

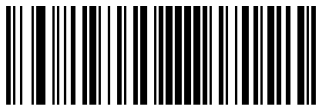


@KBWCPG5

**Code Page 1255 (ヘブライ語)**



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---



@KBWCPG6

Code Page 1256 (アラビア語)



@KBWCPG7

Code Page 1257 (バルト語)



@KBWCPG8

Code Page 1258 (ベトナム語)



@KBWCPG9

Code Page 936 (簡体字中国語、  
GB2312、GBK)



@KBWCPG10

Code Page 950 (繁体字中国語、Big5)



@KBWCPG11

Code Page 874(タイ語)



@KBWCPG12

Code Page 932 (日本語、シフト-JIS)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## Unicodeエンコード

ホストプログラムによっては、受信したバーコードデータの処理のため、異なる文字エンコードを使用する場合があります。例えば、Microsoft Office WordはUnicodeエンコードを使用しているため、**Unicode Encoding**をオンにする必要がありますが、Microsoft Office ExcelやNotepadはCode Pageエンコードを使用しているため、**Unicode Encoding**をオフにする必要があります。この機能は、**Emulate ALT+Keypad**がオンになっている場合のみ有効です。初期設定はオフです。



@KBWCPU0

\*\* Off (オフ)



@KBWCPU1

On (オン)

## 先行ゼロ付きキーボードエミュレーション

この機能をオンにすると、テンキーから送られてくる文字列を、先行ゼロ付きISO文字として送信することができます。例えば、ASCII Aは「ALT MAKE」 0065 「ALT BREAK」 として送信されます。この機能は**Emulate ALT+Keypad**が有効な場合のみ使用できます。



@KBWALZ1

\*\* On (オン)



@KBWALZ0

Off (オフ)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## ファンクションキーマッピング

**Ctrl+ASCII Mode** を選択すると、制御文字（0x00～0x1F）がASCIIシーケンスとして送信されます。初期設定はオフです。



@KBWFKM0

\*\* Disable（無効化）



@KBWFKM1

**Ctrl+ASCII Mode（Ctrl+ASCII モード）**

@KBWFKM2

**Alt+Keypad Mode（Alt+Keypadモード）**

# E

sample

**Ctrl+ASCII Mode**が選択され、USB HID キーボードの他のパラメータが工場出荷時の設定になっている場合、バーコードデータ「A<HT>(例：水平タブ)F」(0x41/0x09/0x46)が以下のように送信されます。

“A” - Keystroke “A” .

<HT> - “Ctrl Make” + Keystroke “I” + “Ctrl Break”

“F” - Keystroke “F”

一部のテキストエディターでは、「Ctrl I」はイタリック変換を意味します。そのため、出力は「AF」になることがあります。

**Alt+Keypad Mode**が選択され、USB HID キーボードの他のパラメータが工場出荷時の設定である場合、上記のデータは以下のように送信されます。

“A” - Keystroke “A” .

<HT> - “Alt Make” + Keystrokes “009” + “Alt Break”

“F” - Keystroke “F”



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

### ASCIIファンクションキーマッピング表

ASCII 制御文字略号	ASCII コード(HEX 値)	ファンクションキーマッピング無効化	Ctrl+ASCII
NUL	00	Null	Ctrl+@
SOH	01	Keypad Enter	Ctrl+A
STX	02	Caps Lock	Ctrl+B
ETX	03	ALT	Ctrl+C
EOT	04	Null	Ctrl+D
ENQ	05	CTRL	Ctrl+E
ACK	06	Null	Ctrl+F
BEL	07	Enter	Ctrl+G
BS	08	左矢印	Ctrl+H
HT	09	水平タブ	Ctrl+I
LF	0A	下矢印	Ctrl+J
VT	0B	垂直タブ	Ctrl+K
FF	0C	Delete	Ctrl+L
CR	0D	Enter	Ctrl+M
SO	0E	Insert	Ctrl+N
SI	0F	Esc	Ctrl+O
DLE	10	F11	Ctrl+P
DC1	11	Home	Ctrl+Q
DC2	12	PrintScreen	Ctrl+R
DC3	13	Backspace	Ctrl+S
DC4	14	tab+shift	Ctrl+T
NAK	15	F12	Ctrl+U
SYN	16	F1	Ctrl+V
ETB	17	F2	Ctrl+W
CAN	18	F3	Ctrl+X
EM	19	F4	Ctrl+Y
SUB	1A	F5	Ctrl+Z
ESC	11	F6	Ctrl+[
FS	1C	F7	Ctrl+\
GS	1D	F8	Ctrl+]
RS	1E	F9	Ctrl+6
US	1F	F10	Ctrl+-



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

**ASCII ファンクションキーマッピング表 (続き)**

上の表の最後の5文字（0x1B～0x1F）は、USキーボード配列にのみ適用されます。次の表は、他の国でこれらの5文字に相当するものを示しています。

国別	Ctrl+ASCII					
アメリカ	Ctrl+[	Ctrl+\	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+-	
ベルギー	Ctrl+[	Ctrl+<	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+-	
スウェーデン	Ctrl+8	Ctrl+<	Ctrl+9	Ctrl+6	Ctrl+-	
フランス	Ctrl+^	Ctrl+8	Ctrl+\$	Ctrl+6	Ctrl+=	
ドイツ		Ctrl+Ã	Ctrl++	Ctrl+6	Ctrl+-	
イタリア		Ctrl+\	Ctrl++	Ctrl+6	Ctrl+-	
スイス		Ctrl+<	Ctrl+..	Ctrl+6	Ctrl+-	
イギリス	Ctrl+[	Ctrl+ ¢	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+-	
デンマーク	Ctrl+8	Ctrl+\	Ctrl+9	Ctrl+6	Ctrl+-	
ノルウェー	Ctrl+8	Ctrl+\	Ctrl+9	Ctrl+6	Ctrl+-	
スペイン	Ctrl+[	Ctrl+\	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+-	



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## キーストローク間の遅延

このパラメータは、エミュレートされたキーストローク間の遅延を指定します。以下のバーコードをスキャンするとホスト機器がゆっくり送信する必要がある場合に遅延させることができます。初期設定は**No Delay**（遅延なし）です。



@KBWDLY0  
**No Delay**（遅延なし）



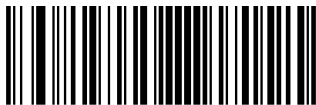
@KBWDLY40  
**\*\*Long Delay**（長：40ms）



@KBWDLY20  
**Short Delay**（短：20ms）



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

## Caps Lock

**Caps Lock ON (Caps Lockをオン)** オプションでバーコードデータに含まれている大文字と小文字を変換できます。

変換はホスト機器のキーボードのCaps Lockキーの状態に関係なく発生します。



@KBWCAP0

**\*\* Caps Lock OFF (Non-Japanese keyboard)**

(Caps Lockをオフ、日本語ではないキーボード)



@KBWCAP1

**Caps Lock ON (Non-Japanese keyboard)**

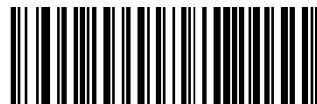
(Caps Lockをオン、日本語ではないキーボード)



@KBWCAP2

**Caps Lock OFF (Japanese keyboard)**

(Caps Lockをオフ、日本語のキーボード)



@KBWCAP3

**Caps Lock ON (Japanese keyboard)**

(Caps Lockを、日本語のキーボード)



**Emulate ALT+Keypad ON/ Convert All to Upper Case/ Convert All to Lower Case** の各バーコード

は**Caps Lock ON**を優先します。



**Caps Lock ON**機能を選択している場合、バーコードデータ「AbC」は「aBc」として送信されます。



#SETUPE0

Exit Setup





#SETUPE1  
Enter Setup

## 大文字/小文字の切り替え

以下の適切なバーコードをスキャンすると、すべてのバーコードデータを大文字または小文字に変換できます。



@KBWCAS0

**\*\* No Case Conversion (変換なし)**



@KBWCAS1

**Convert All to Upper Case (全て大文字へ変換)**



@KBWCAS2

**Convert All to Lower Case (全て小文字へ変換)**

**E**  
xample

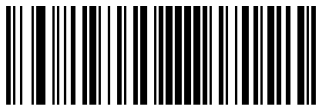
**Convert All to Lower Case**機能が有効な場合、バーコードデータ「AbC」は「abc」として送信されます。



**Emulate ALT+Keypad ON**を選択した場合、Convert All to Lower CaseおよびConvert All to Upper Caseは機能しません。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

テンキーをエミュレート



**Do Not Emulate Numeric Keypad 1 (テンキーをエミュレートしない1)** : 数字 (0~9) の送信は、メインキーボードのキーストロークとしてエミュレートされます。

**Emulate Numeric Keypad 1 (テンキーをエミュレートする1)** : 数字 (0~9) の送信を、テンキーのキーストロークとしてエミュレートします。模擬テンキーのNum Lockの状態は、ホスト機器のNum Lockの状態によって決まります。ホスト機器のNum Lockがオフになっている場合、模擬テンキーの出力は数字キーではなくファンクションキーになります。

**Do Not Emulate Numeric Keypad 2 (テンキーをエミュレートしない2)** : 「+」、「-」、「\*」、「/」の送信は、メインキーボードのキーストロークとしてエミュレートされます。

**Emulate Numeric Keypad 2 (テンキーをエミュレートする2)** : 「+」、「-」、「\*」、「/」の送信は、テンキー上のキーストロークとしてエミュレートされます。



@KBWNUM0

**\*\* Do Not Emulate Numeric Keypad 1 (テンキーをエミュレートしない1)**



@KBWNUM1

**Emulate Numeric Keypad 1 (テンキーをエミュレートする1)**



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup



@KBWNCH0

**\*\* Do Not Emulate Numeric Keypad 2**  
(テンキーをエミュレートしない2)



@KBWNCH1

**Emulate Numeric Keypad 2**  
(テンキーをエミュレートする2)

**Emulate ALT+Keypad ON**は**Emulate Numeric Keypad**を優先します。

**E**  
*xample*

**Emulate Numeric Keypad 1**と**Emulate Numeric Keypad 2**が有効である場合を想定します。

ホスト機器のNum LockがONの場合、「A4.5」は「A4.5」として送信されます。

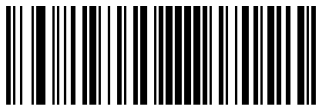
ホスト機器のNum LockがOFFの場合、「A4.5」は以下のように送信されます。

1. テンキーに含まれていないため、「A」が送信されます。
2. 「4」がファンクションキー「左へカーソル移動」として送信されます。
3. 「・」が送信されます。
4. 「5」はどのファンクションキーにも対応していないため、送信されません。

ホスト機器は最終的に「A」を受信します。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

記号「+」、「-」、「\*」、「/」をテンキーで有効化



@KBWNCH0

\*\* Off (オフ)



@KBWNCH1

On (オン)

### ファストモード

**Fast Mode On** (ファストモードをオン) を選択している場合、スキャナーの文字送信速度が上がります。ホストが文字をドロップする場合、ファストモードがオフになるか、ポーリングレートの値が大きくなります。



@KBWFAS0

\*\* Fast Mode Off (ファストモードをオフ)



@KBWFAS1

Fast Mode On (ファストモードをオン)

### ポーリングレート

このパラメータはUSBキーボードのポーリングレートを指定します。値が小さいほど、スキャナーからホスト機器への文字の送信が速くなります。ホスト機器が文字をドロップする場合、ポーリングレートを大きな値へ変更します。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

---



@KBWPOR0  
1ms



@KBWPOR1  
2ms



@KBWPOR2  
3ms



@KBWPOR3  
\*\* 4ms



@KBWPOR4  
5ms



@KBWPOR5  
6ms



@KBWPOR6  
7ms



@KBWPOR7  
8ms



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---



@KBWPOR8

9ms



@KBWPOR9

10ms



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## USB CDC

スキャナーがホスト機器のUSB ポートに接続されている場合、ホスト機器はUSB CDC 機能のおかげでシリアルポートと同じ方法でデータを受信できます。この機能を使用する場合、ドライバーが必要です。当社オフィシャルサイト ([www.busicom.co.jp](http://www.busicom.co.jp)) からドライバーをダウンロードできます。



@INTERF8  
USB CDC

## VID/PID

USBでは、VID（ベンダーID）とPID（製品ID）を用いてデバイスの識別、位置特定を行います。VIDは、USBインプリメンターズ・フォーラムによって割り当てられます。VIDは1EAB（Hex）です。当社の各製品には、さまざまなPIDが使用されています。各PIDには、ベースナンバーとインターフェースタイプ（キーボード、COMポートなど）が含まれています。

製品	インターフェース	Interface	PID (Hex)	PID (Dec)
BS80V2	USB HID キーボード	USB HID Keyboard	1322	4898
	USB CDC	USB CDC	0C06	3078



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## 第4章 ワイヤレス通信

### 操作モード

スキャナーには、以下の操作モードがあります。**Enter Setup** バーコードをスキャンすると、操作モードが変更されます。

**Bluetooth HID Mode (Bluetooth HID モード)** では、スキャナーはBluetoothを使用してリモートホストと通信することができます。これら2つのBluetoothデバイスが互いに通信する前に、まずスキャナーをホスト機器とペアリングする必要があります。USB HID キーボードで利用可能なすべての機能は、Bluetooth HID でも利用できます。

**注意：**他のBluetoothデバイスと接続する前に、スキャナーとホスト機器のペアリング情報をクリアする必要があります。

**Bluetooth BLE Mode (Bluetooth BLEモード)** は、Bluetooth SDKに基づき、ホスト内のアプリケーションと通信するBluetooth低消費電力通信モードです。

このモードでは、スキャナーはGATTサービスをベースにしたシリアルトランスペアレント伝送サービスを提供します。



@INTERF10

\*\*Bluetooth HID



@INTERF11

Bluetooth BLE



@INTERF9

Bluetooth SPP



#SETUPE0

Exit Setup





#SETUPE1  
Enter Setup

## スキャナーのペアリング情報をクリア



@WLSCLP

Clear Pairing Info on Scanner (スキャナーのペアリング情報をクリア)

## バッチモード



@WLSSBT

Batch Mode Options (バッチモードオプション)

### バッチモードオプション

**Off (オフ)** : スキャナーは、スキャンしたバーコードごとに送信を試みます。サービス範囲外の場合、スキャンしたデータは失われます。

**Automatic Batch Mode (自動バッチモード)** : サービス範囲内にある場合、スキャナーはスキャンした全てのバーコードの送信を試みます。範囲外の場合、スキャナーはスキャンしたデータをフラッシュメモリに保存します。サービス範囲に戻ると、スキャナーは保存されたデータを自動送信し、送信完了後にフラッシュメモリからデータを削除します。

**Manual Batch Mode (手動バッチモード)** : スキャンしたデータは、サービス範囲内外を問わずフラッシュメモリに保存されます。保存されたデータは、**Transmit Stored Data** バーコードをスキャンしてホスト機器に送信できます。送信後の保存データの自動消去機能がオンになっている場合、スキャナーは送信後にフラッシュメモリから保存データを自動的に削除します。



@WLSBAT0  
\*\* Off (オフ)



@WLSBAT1

Automatic Batch Mode (自動バッチモード)



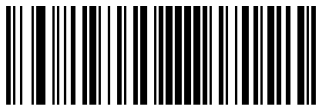
@WLSBAT2

Manual Batch Mode (手動バッチモード)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

### 保存したデータを送信

以下のバーコードを読み取ると、フラッシュメモリに保存しているデータをホストへ送信することができます。この機能は、手動バッチモードでのみ使用できます。



@WLSSBT

**Transmit Stored Data**

(保存したデータを送信)

以下の適切なバーコードをスキャンして送信後、フラッシュメモリに保存したデータをクリアするかそのまま保存するか選択することができます。この機能は手動バッチモードでのみ利用可能です。



@WLSCLE0

**\*\* Off (オフ)**



@WLSCLE1

**On (オン)**



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

フラッシュメモリに保存したデータをクエリ/クリア



@WLSQFC

**Query the Number of Stored Barcodes**

(保存したバーコード数をクエリ)



@WLSCLF

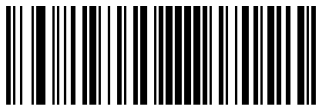
**Clear All Stored Data**

(保存したバーコード数をクリア)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

## 同じバーコードの保存を防止

この機能は、自動または手動バッチモードでバーコードをスキャンしているときのみ使用できます。

**On (オン)** : フラッシュメモリに存在するバーコードに遭遇した場合、スキャナーはデータを破棄し、エラーのブザー音を発します。

**Off (オフ)** : スキャナーは、フラッシュメモリに存在するバーコードに遭遇した場合もデータを保存します。



@WLSSE0

**\*\* Off (オフ)**



@WLSSE1

**On (オン)**



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## バッチモード送信ディレイ

フラッシュメモリに保存した複数のバーコードをホスト機器に送信するとき、それらのバーコードの送信が速すぎてアプリケーションが処理できないことがあります。バーコード間の送信ディレイをプログラムする場合、以下のいずれかのディレイ用バーコードをスキャンします。



@WLSBTD0

**\*\* No Transmit Delay (なし : 0ms)**



@WLSBTD50

**Short Transmit Delay (短 : 50ms)**



@WLSBTD100

**Medium Transmit Delay (中 : 100ms)**



@WLSBTD150

**Long Transmit Delay (長 : 150ms)**

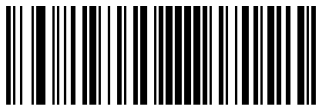


@WLSBTD

**Custom Transmit Delay (カスタム : 0-10,000ms)**



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

## Example

バッチモード送信ディレイを200msに設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Custom Transmit Delay**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「2」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## バッチモード用送信終了メッセージ

以下のバーコードをスキャンして、保存されているすべてのデータの送信が終了したことをホスト機器に通知する送信終了メッセージ（ユーザープログラム可能）を送信するかを選択することができます。この機能は、手動バッチモード選択時に手動で開始されたデータ送信にのみ使用できます。



@WLSBTT0

**\*\* End of Transmission Message Off**（バッチモード用送信終了メッセージをオフ）



@WLSBTT1

**End of Transmission Message On**（バッチモード用送信終了メッセージをオン）

送信終了メッセージは、最大10文字（HEX値：0x00～0xFF）です。送信終了メッセージの設定は、**Set End of Transmission Message**（バッチモード用送信終了メッセージを設定）バーコード、希望する文字の16進数値を表す数字バーコード、および**Save**バーコードをスキャンします。初期設定は「EOT」です。



@WLSBTC

**Set End of Transmission Message**

（バッチモード用送信終了メッセージを設定）

送信終了メッセージを「END」（HEX: 0x45, 0x4E, 0x44）に設定する方法

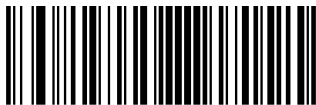
**E**  
xample

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set End of Transmission Message** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「4」、「5」、「4」、「E」、「4」、「4」
4. をスキャンします。
5. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
6. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

## スキャナー名を設定

以下のバーコードを読み取ると、スキャナーの名前を設定することができます。最大長さは5文字（HEX値0x20～0x7E）です。  
スキャナー名の初期設定は「00000」です。



@WLSNAM

Scanner Name（スキャナー名）

**E**  
*sample*

スキャナー名を「0AB00」に設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Scanner Name** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「3」、「0」、「4」、「1」、「4」、「2」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup





#SETUPE1  
Enter Setup

## 自動電源オフタイムアウト

自動電源オフタイムアウトは、スキャナーが非アクティブ状態から自動的に電源オフするまでの時間を設定します。



@WLSAPO0

**5 Minutes (5分)**



@WLSAPO2

**20 Mintues (20分)**



@WLSAPO4

**60 Minutes (60分)**



@WLSAPO1

**10 Minutes (10分)**



@WLSAPO3

**\*\*30 Mintues (30分)**



@WLSAPO5

**Disable Auto Power-off**  
(自動電源オフを無効化)



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## 第 5 章 バーコード (シンボロジー)

### 概要

すべてのシンボロジー（バーコードタイプ）には、独自の属性があります。本章では、スキャナーがさまざまなシンボロジーを識別できるように設定するためのプログラミングバーコードについて説明します。スキャナーの性能向上のため、ほとんど使用しない機能を無効化することをお勧めします。

### グローバル設定

#### 全てのシンボロジーを有効化/無効化

**Disable All Symbolologies**（全てのシンボロジーを無効化）機能を有効すると、スキャナーはプログラミングバーコード以外のバーコードを読み取ることができなくなります。



@ALLENA1

**Enable All Symbolologies**

（全てのシンボロジーを有効化）



@ALLENA0

**Disable All Symbolologies**

（全てのシンボロジーを無効化）

#### 1次元シンボロジーを有効化/無効化



@ALL1DC1

**Enable 1D Symbolologies**

（1次元シンボロジーを有効化）



@ALL1DC0

**Disable 1D Symbolologies**

（1次元シンボロジーを無効化）



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## 2次元シンボロジーを有効化/無効化



@ALL2DC1

**Enable 2D Symbolologies**  
(2次元シンボロジーを有効化)



@ALL2DC0

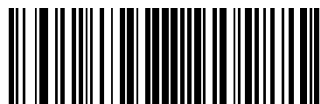
**Disable 2D Symbolologies**  
(2次元シンボロジーを無効化)

## 郵便用シンボロジーを有効化/無効化



@ALLPST1

**Enable Postal Symbolologies**  
(郵便用シンボロジーを有効化)

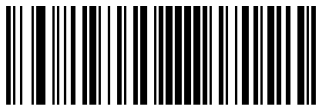


@ALLPST0

**Disable Postal Symbolologies**  
(郵便用シンボロジーを無効化)



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

## Code 128

工場出荷時設定に戻す



@128DEF

Restore the Factory Defaults of Code 128

(Code 128の工場出荷時設定に戻す)

## Code 128を有効化/無効化



@128ENA1

\*\* Enable Code 128 (Code 128を有効化)



@128ENA0

Disable Code 128 (Code 128を無効化)



スキャナーがCode 128バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードを  
スキャン後、**Enable Code 128**をスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## Code 128の桁数を設定

Code 128の最小桁数と最大桁数の変更が行えます。これを行うと指定されていない桁数の読み取りは行えなくなります。



**Set the Minimum Length**  
(最小桁数設定 初期設定：1)



**Set the Maximum Length**  
(最大桁数設定 初期設定：48)

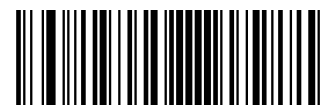


最小桁数が最大桁数より大きく設定されている場合、スキャナーは最小桁数または最大桁数のいずれかを持つCode 128バーコードしかデコードしません。最小桁数と最大桁数が同じ場合、その長さのCode 128しか読み取りません

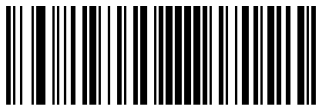


スキャナーが8～12文字のCode 128バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

## EAN-8

工場出荷時設定に戻す



@EA8DEF

**Restore the Factory Defaults of EAN-8**  
(EAN-8の工場出荷時設定に戻す)

EAN-8を有効化/無効化



@EA8ENA1

**\*\* Enable EAN-8 (EAN-8を有効化)**



@EA8ENA0

**Disable EAN-8 (EAN-8を無効化)**



スキャナーがEAN-8バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、

**Enable EAN-8**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。

チェックキャラクタを送信

EAN-8は長さが8桁であり、末尾の1文字はデータの整合性を検証するチェックキャラクタです。



@EA8CHK2

**\*\* Transmit EAN-8 Check Character**  
(EAN-8のチェックキャラクタを送信する)



@EA8CHK1

**Do Not Transmit EAN-8 Check Character**  
(EAN-8のチェックキャラクタを送信しない)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## 2桁のアドオンコード

EAN-8バーコードは2桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が EAN-8バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が2桁のアドオンコードです。



**\*\* Disable 2-Digit Add-On Code**  
(2桁のアドオンコードを無効化)



**Enable 2-Digit Add-On Code**  
(2桁のアドオンコードを有効化)



**Disable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを無効化)** : EAN-8に2桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはEAN-8 バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。2桁のアドオンコードがないEAN-8バーコードもデコードすることができます。

**Enable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを有効化)** : Tスキャナーは2桁のアドオンコードがあるEAN-8バーコードとアドオンコードがないEAN-8バーコードのどちらもデコードします。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## 5桁のアドオンコード

EAN-8バーコードは5桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が EAN-8バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が5桁のアドオンコードです。



@EA8AD50

### \*\* Disable 5-Digit Add-On Code

(5桁のアドオンコードを無効化)



@EA8AD51

### Enable 5-Digit Add-On Code

(5桁のアドオンコードを有効化)



**Disable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを無効化) :** EAN-8に5桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはEAN-8 バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。5桁のアドオンコードがないEAN-8バーコードもデコードすることができます。

**Enable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを有効化) :** スキャナーは5桁のアドオンコードがあるEAN-8バーコードとアドオンコードがないEAN-8バーコードのどちらも読み取ります。



#SETUPE0

Exit Setup





#SETUPE1  
Enter Setup

## アドオンコードをリクエスト

**EAN-8 Add-On Code Required** (EAN-8のアドオンコードをリクエストする) を選択すると、スキャナーはアドオンコード付きのEAN-8バーコードのみ読み取ります。



@EA8REQ0

**\*\* EAN-8 Add-On Code Not Required**  
(EAN-8のアドオンコードをリクエストしない)



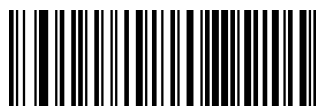
@EA8REQ1

**8 Add-On Code Required**  
(EAN-8のアドオンコードをリクエストする)

## EAN-8からEAN-13へ変換

**Convert EAN-8 to EAN-13** (EAN-8からEAN-13へ変換する) : EAN-8のデコードデータを送信前にEAN-13形式へ変換します。変換後、データはEAN-13形式に準拠し、EAN-13のプログラミングの選択 (チェックキャラクタなど) に影響を受けます。

**Do Not Convert EAN-8 to EAN-13** (EAN-8からEAN-13へ変換しない) : EAN-8のデコードデータは変換されず、EAN-8形式で送信されます。



@EA8EXP0

**\*\* Do Not Convert EAN-8 to EAN-13**  
(EAN-8からEAN-13へ変換しない)



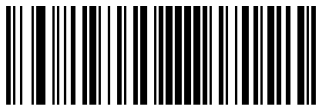
@EA8EXP1

**Convert EAN-8 to EAN-13**  
(EAN-8からEAN-13へ変換する)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

## EAN-13

工場出荷時設定に戻す



@E13DEF

**Restore the Factory Defaults of EAN-13**  
(EAN-13の工場出荷時設定に戻す)

## EAN-13を有効化/無効化



@E13ENA1

**\*\* Enable EAN-13**  
(EAN-13を有効化)



@E13ENA0

**Disable EAN-13**  
(EAN-13を無効化)



スキャナーがEAN-13バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、  
**Enable EAN-13**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

---

チェックキャラクタを送信



@E13CHK2

**\*\* Transmit EAN-13 Check Character**  
(EAN-13チェックキャラクタを送信する)

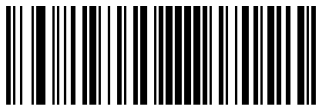


@E13CHK1

**Do Not Transmit EAN-13 Check Character**  
(EAN-13チェックキャラクタを送信しない)



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## 2桁のアドオンコード

EAN-13バーコードは2桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が EAN-13バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が2桁のアドオンコードです。



@E13AD20

### \*\* Disable 2-Digit Add-On Code

(2桁のアドオンコードを無効化)



@E13AD21

### Enable 2-Digit Add-On Code

(2桁のアドオンコードを有効化)



**Disable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを無効化) :** EAN-13に2桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはEAN-13 バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。2桁のアドオンコードがないEAN-13バーコードもデコードすることができます。

**Enable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを有効化) :** スキャナーは2桁のアドオンコードがあるEAN-13バーコードとアドオンコードがないEAN-13バーコードのどちらもデコードします。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## 5桁のアドオンコード

EAN-13バーコードは5桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が EAN-13バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が5桁のアドオンコードです。



**\*\* Disable 5-Digit Add-On Code**  
(5桁のアドオンコードを無効化)



**Enable 5-Digit Add-On Code**  
(5桁のアドオンコードを有効化)



**Disable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを無効化)** : EAN-13に5桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはEAN-13バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。5桁のアドオンコードがないEAN-13バーコードもデコードすることができます。

**Enable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを有効化)** : スキャナーは5桁のアドオンコードがあるEAN-13バーコードとアドオンコードがないEAN-13バーコードのどちらも読み取ります。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## アドオンコードをリクエスト

**EAN-13 Add-On Code Required** (EAN-13のアドオンコードをリクエスト) を選択すると、スキャナーはアドオンコード付きのEAN-13バーコードのみ読み取ります。



@E13REQ0

**\*\* EAN-13 Add-On Code Not Required**  
(EAN-13のアドオンコードをリクエストしない)



@E13REQ1

**EAN-13 Add-On Code Required**  
(EAN-13のアドオンコードをリクエストする)

## 290で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「290」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

**Require Add-On Code** (アドオンコードをリクエストする) : EAN-13バーコードが全て「290」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

**Do Not Require Add-On Code** (アドオンコードをリクエストしない) : **Require Add-On Code**を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code**をスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



@E132900

**\*\* Do Not Require Add-On Code**  
(アドオンコードをリクエストしない)



@E132901

**Require Add-On Code**  
(アドオンコードをリクエストする)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

### 378/379 で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「378」または「379」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

**Require Add-On Code**（アドオンコードをリクエストする）:EAN-13バーコードが全て「378」または「379」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストです。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

**Do Not Require Add-On Code**（アドオンコードをリクエストしない）: **Require Add-On Code**を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code**をスキャンします。EAN-13 バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



@E133780

#### \*\* Do Not Require Add-On Code

（アドオンコードをリクエストしない）



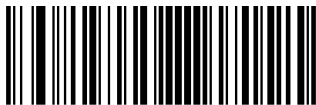
@E133781

#### Require Add-On Code

（アドオンコードをリクエストする）



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

#### 414/419で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「414」または「419」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

**Require Add-On Code**（アドオンコードをリクエストする）:EAN-13バーコードが全て「414」または「419」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

**Do Not Require Add-On Code**（アドオンコードをリクエストしない）: **Require Add-On Code**を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code**をスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



@E134140

**\*\* Do Not Require Add-On Code**  
(アドオンコードをリクエストしない)



@E134141

**Require Add-On Code**  
(アドオンコードをリクエストする)



#SETUPE0

Exit Setup





#SETUPE1  
Enter Setup

### 434/439で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「434」または「439」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

**Require Add-On Code**（アドオンコードをリクエストする）:EAN-13バーコードが全て「434」または「439」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

**Do Not Require Add-On Code**（アドオンコードをリクエストしない）：**Require Add-On Code**を選択後、この機能が無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code**をスキャンします。EAN-13 バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



@E134340

**\*\* Do Not Require Add-On Code**  
(アドオンコードをリクエストしない)



@E134341

**Require Add-On Code**  
アドオンコードをリクエストする)



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

### 977で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「977」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

**Require Add-On Code**（アドオンコードをリクエストする）:EAN-13バーコードが全て「977」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

**Do Not Require Add-On Code**（アドオンコードをリクエストしない）: **Require Add-On Code**を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code**をスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



@E139770

**\*\* Do Not Require Add-On Code**  
(アドオンコードをリクエストしない)



@E139771

**Require Add-On Code**  
(アドオンコードをリクエストする)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## 978で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「978」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキヤナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

**Require Add-On Code**（アドオンコードをリクエストする）:EAN-13バーコードが全て「978」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

**Do Not Require Add-On Code**（アドオンコードをリクエストしない）: **Require Add-On Code**を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code**をスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



@E139780

### \*\* Do Not Require Add-On Code

（アドオンコードをリクエストしない）



@E139781

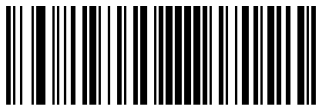
### Require Add-On Code

（アドオンコードをリクエストする）



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

### 979で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「979」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

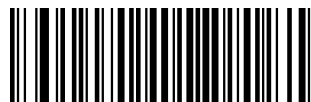
**Require Add-On Code**（アドオンコードをリクエストする）: EAN-13バーコードが全て「979」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

**Do Not Require Add-On Code**（アドオンコードをリクエストしない）: **Require Add-On Code**を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code**をスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



@E139790

**\*\* Do Not Require Add-On Code**  
(アドオンコードをリクエストしない)



@E139791

**Require Add-On Code**  
(アドオンコードをリクエストする)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## UPC-E

工場出荷時設定に戻す



@UPEDEF

**Restore the Factory Defaults of UPC-E**  
(UPC-Eの工場出荷時設定に戻す)

## UPC-Eを有効化/無効化



@UPEENA1

**\*\* Enable UPC-E (UPC-Eを有効化)**



@UPEEN01

**\*\* Enable UPC-E0 (UPC-E0を有効化)**



@UPEEN11

**Enable UPC-E1 (UPC-E1を有効化)**



@UPEENA0

**Disable UPC-E (UPC-Eを無効化)**



@UPEEN00

**Disable UPC-E0 (UPC-E0を無効化)**



@UPEEN10

**\*\*Disable UPC-E1 (UPC-E1を有効化)**

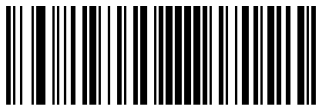


スキャナーが**UPC-E/UPC-E0/UPC-E1**バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードを  
スキャン後、**Enable UPC-E/UPC-E0/UPC-E1**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

### チェックキャラクタを送信

UPC-Eは 長さが 8 桁であり、末尾の1文字はデータの整合性を検証するチェックキャラクタです。



@UPECHK2

**\*\* Transmit UPC-E Check Character**

(UPC-Eチェックキャラクタを送信する)



@UPECHK1

**Do Not Transmit UPC-E Check Character**

(UPC-Eチェックキャラクタを送信しない)

### 2桁のアドオンコード

UPC-Eバーコードは2桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が UPC-Eバーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が2桁のアドオンコードです。



@UPEAD20

**\*\* Disable 2-Digit Add-On Code**

(2桁のアドオンコードを無効化)



@UPEAD21

**Enable 2-Digit Add-On Code**

(2桁のアドオンコードを有効化)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup



**Disable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを無効化)** : UPC-Eに2桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはUPC-E バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。2桁のアドオンコードがないUPC-Eバーコードもデコードすることができます。

**Enable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを有効化)** : スキャナーは2桁のアドオンコードがあるUPC-EバーコードとアドオンコードがないUPC-Eバーコードのどちらもデコードします。

## 5桁のアドオンコード

UPC-Eバーコードは5桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所がUPC-Eバーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が5桁のアドオンコードです。



@UPEAD50

**\*\* Disable 5-Digit Add-On Code**  
(5桁のアドオンコードを無効化)



@UPEAD51

**Enable 5-Digit Add-On Code**  
(5桁のアドオンコードを有効化)



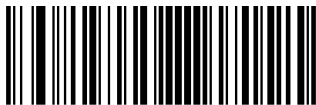
**Disable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを無効化)** : UPC-Eに5桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはUPC-Eバーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。5桁のアドオンコードがないUPC-Eバーコードもデコードすることができます。

**Enable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを有効化)** : スキャナーは5桁のアドオンコードがあるUPC-EバーコードとアドオンコードがないUPC-Eバーコードのどちらも読み取ります。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## アドオンコードをリクエスト

**UPC-E Add-On Code Required** (UPC-Eのアドオンコードをリクエストする) を選択すると、  
スキャナーは アドオンコード付きのUPC-Eバーコードのみ読み取ります。



@UPAREQ0

**\*\* UPC-E Add-On Code Not Required**  
(UPC-Eのアドオンコードをリクエストしない)



@UPAREQ1

**UPC-E Add-On Code Required**  
(UPC-Eのアドオンコードをリクエストする)

## プリアンブルキャラクタを送信

プリアンブルキャラクタ (国コードとシステムキャラクタ) は、UPC-E バーコードの一部として送信できます。  
UPC-Eプリアンブルをホスト機器に送信する際、システムキャラクタのみ、システムキャラクタと国コード (アメリカは「0」)、プリアンブルキャラクタなしのいずれかの送信方法を選択します。



@UPEPRE1

**\*\* System Character**  
(システムキャラクタ)



@UPEPRE0

**No Preamble**  
(プリアンブルキャラクタなし)



@UPEPRE2

**System Character & Country Code**  
(システムキャラクタ&国コード)



#SETUPE0

Exit Setup



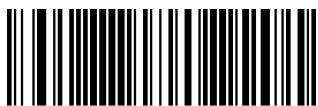


#SETUPE1  
Enter Setup

## UPC-EからUPC-Aへ変換

**Convert UPC-E to UPC-A (UPC-EからUPC-Aへ変換する) :** UPC-E(ゼロサプレス)のデコードデータを送信前にUPC-A形式へ変換します。変換後、データはUPC-A形式に準拠し、UPC-Aのプログラミングの選択（プリアンブル、チェックキャラクタなど）に影響を受けます。

**Do Not Convert UPC-E to UPC-A (UPC-EからUPC-Aへ変換しない) :** UPC-Eのデコードデータは変換されず、UPC-Eデータとして送信されます。



@UPEEXP0

**\*\* Do Not Convert UPC-E to UPC-A**  
(UPC-EからUPC-Aへ変換しない)



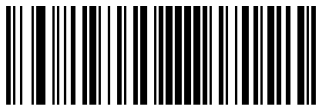
@UPEEXP1

**Convert UPC-E to UPC-A**  
(UPC-EからUPC-Aへ変換する)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

## UPC-A

工場出荷時設定に戻す



@UPADEF

**Restore the Factory Defaults of UPC-A**

(UPC-Aの工場出荷時設定に戻す)

## UPC-Aを有効化/無効化



@UPAENA1

**\*\* Enable UPC-A**

(UPC-Aを有効化)



@UPAENA0

**Disable UPC-A**

(UPC-Aを無効化)



スキャナーがUPC-Aバーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、

**Enable UPC-A**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## チェックキャラクタを送信

UPC-Aは 長さが13桁であり、末尾の1文字はデータの整合性を検証するチェックキャラクタです。



@UPACHK2

### \*\* Transmit UPC-A Check Character

(UPC-Aチェックキャラクタを送信する)



@UPACHK1

### Do Not Transmit UPC-A Check Character

(UPC-Aチェックキャラクタを送信しない)

## 2桁のアドオンコード

UPC-Aバーコードは2桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が UPC-Aバーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が2桁のアドオンコードです。



@UPAAD20

### \*\* Disable 2-Digit Add-On Code

(2桁のアドオンコードを無効化)



@UPAAD21

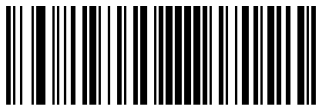
### Enable 2-Digit Add-On Code

(2桁のアドオンコードを有効化)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---



**Disable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを無効化) :** UPC-Aに2桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはUPC-A バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。2桁のアドオンコードがないUPC-Aバーコードもデコードすることができます。

**Enable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを有効化) :** スキャナーは2桁のアドオンコードがあるUPC-AバーコードとアドオンコードがないUPC-Aバーコードのどちらもデコードします。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## 5桁のアドオンコード

UPC-Aバーコードは5桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が UPC-Aバーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が5桁のアドオンコードです。



@UPAAD50

**\*\* Disable 5-Digit Add-On Code**  
(5桁のアドオンコードを無効化)



@UPAAD51

**Enable 5-Digit Add-On Code**  
(5桁のアドオンコードを有効化)



**Disable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを無効化)** : UPC-Aに5桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはUPC-A バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。5桁のアドオンコードがないUPC-Aバーコードもデコードすることができます。

**Enable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを有効化)** : スキャナーは5桁のアドオンコードがあるUPC-AバーコードとアドオンコードがないUPC-Aバーコードのどちらも読み取ります。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

### アドオンコードをリクエスト

**UPC-A Add-On Code Required** (UPC-Aのアドオンコードをリクエストする) を選択すると、スキャナーはアドオンコード付きの UPC-Aバーコードのみ読み取ります。



@UPAREQ0

**\*\* UPC-A Add-On Code Not Required**  
(UPC-Aのアドオンコードをリクエストしない)



@UPAREQ1

**UPC-A Add-On Code Required**  
(UPC-Aのアドオンコードをリクエストする)

### プリアンブルキャラクタを送信

プリアンブルキャラクタ (国コードとシステムキャラクタ) は、UPC-A バーコードの一部として送信できます。UPC-Aプリアンブルをホスト機器に送信する際、システムキャラクタのみ、システムキャラクタと国コード (アメリカは「0」)、プリアンブルキャラクタなしのいずれかの送信方法を選択します。



@UPAPRE0

**No Preamble**  
(プリアンブルキャラクタなし)



@UPAPRE1

**\*\* System Character**  
(システムキャラクタ)



@UPAPRE2

**System Character & Country Code**  
(システムキャラクタ & 国コード)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## インタリーブド 2 of 5 工場出荷時設定に戻す



@I25DEF

**Restore the Factory Defaults of Interleaved 2 of 5**  
(インタリーブド 2 of 5 の工場出荷時設定に戻す)

## インタリーブド 2 of 5 を有効化/無効化



@I25ENA1

**\*\* Enable Interleaved 2 of 5**  
(インタリーブド 2 of 5 を有効化)

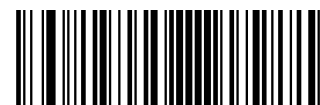


@I25ENA0

**Disable Interleaved 2 of 5**  
(インタリーブド 2 of 5 を無効化)



スキャナーがインタリーブド 2 of 5 を 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Interleaved 2 of 5** バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## インタリーブド2 of 5の桁数を設定

インタリーブド 2 of 5の最小桁数と最大桁数の変更が行えます。これを行うと指定されていない桁数の読み取りは行えなくなります。



@I25MIN

### Set the Minimum Length

(最小長さ設定 初期設定 : 6)



@I25MAX

### Set the Maximum Length

(最大長さ設定 初期設定 : 80)



最小桁数が最大桁数より大きく設定されている場合、スキャナーは最小桁数または最大桁数のいずれかを持つインタリーブド 2 of 5しかデコードしません。最小桁数と最大桁数が同じ場合、その長さのインタリーブド 2 of 5しかデコードしません。



### スキャナーが8~12文字のインタリーブド 2 of 5をデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup





#SETUPE1  
Enter Setup

## チェックキャラクタ検証

チェックキャラクタはインタリーブド2 of 5のオプションであり、最後の文字として追加できるデータの整合性検証使用の計算値です。

**Disable（無効化）**：スキャナーはインタリーブド2 of 5をそのまま送信します。

**Do Not Transmit Check Character After Verification（検証後にチェックキャラクタを送信しない）**：スキャナーは、インタリーブド2 of 5の整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに対応しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

**Transmit Check Character After Verification（検証後にチェックキャラクタを送信する）**：スキャナーは、インタリーブド2 of 5の整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに準拠しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。

インタリーブド2 of 5は文字数が必ず偶数になるため、チェックキャラクタを追加する際、最初の数字の前に0を追加する必要があります。チェックキャラクタはインタリーブド2 of 5作成時に自動的に生成されます。



**\*\*Disable（無効化）**



**Do Not Transmit Check Character After Verification**  
(検証後にチェックキャラクタを送信しない)



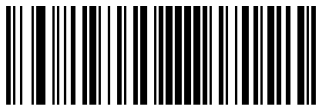
**Transmit Check Character After Verification**  
(検証後にチェックキャラクタを送信する)



**Do Not Transmit Check Character After Verification（検証後にチェックキャラクタを送信しない）** オプションが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短いインタリーブド2 of 5はデコードされません（例えば、**Do Not Transmit Check Character After Verification**のオプションが有効で最小長さが4に設定されている場合、合計長さが4でチェックキャラクタを含むインタリーブド2 of 5は読み取られません）。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## ITF-14

ITF-14 は長さが14文字で末尾の文字がチェックキャラクタである特殊なインタリーブド2 of 5 です。

ITF-14 priority principle(ITF-14優先原則): 長さが、14文字で末尾の文字がチェックキャラクタのインタリーブド2 of 5 の場合、ITF-14 設定がインタリーブド2 of 5バーコードの設定より優先されます。

工場出荷時設定に戻す



@I14DEF

**Restore the Factory Defaults of ITF-14**  
(ITF-14の工場出荷時設定に戻す)

## ITF-14を有効化/無効化



@I14ENA0

**\*\* Disable ITF-14 (ITF-14を無効化)**



@I14ENA1

**Enable ITF-14 But Do Not Transmit Check Character**  
(ITF-14を有効化するが、チェックキャラクタを送信しない)



@I14ENA2

**Enable ITF-14 and Transmit Check Character**  
(ITF-14を有効化して、チェックキャラクタを送信する)



ITF-14優先原則の例: ITF-14が有効で、インタリーブド2 of 5が無効の場合、スキャナーは長さが14文字で末尾がチェックキャラクタのインタリーブド2 of 5 バーコードのみデコードします。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## ITF-6

ITF-6 は長さが6文字で末尾の文字がチェックキャラクタになっている特殊なインタリーブド2 of 5 です。

ITF-6優先原則: 長さが、6文字で末尾の文字がチェックキャラクタのインタリーブド2 of 5の場合、ITF-6 設定がインタリーブド2 of 5バーコードの設定より優先されます。

工場出荷時設定に戻す



@IT6DEF

**Restore the Factory Defaults of ITF-6** (ITF-6の工場出荷時設定に戻す)

## ITF-6を有効化/無効化



@IT6ENA0

**\*\* Disable ITF-6** (ITF-6を無効化)



@IT6ENA1

**Enable ITF-6 But Do Not Transmit Check Character**  
(ITF-6を有効化するが、チェックキャラクタを送信しない)



@IT6ENA2

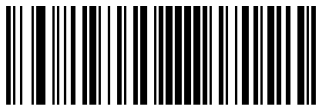
**Enable ITF-6 and Transmit Check Character**  
(ITF-6を有効化して、チェックキャラクタを送信する)



ITF-6優先原則の例: ITF-6が有効で、インタリーブド2 of 5が無効の場合、スキャナーは長さが6文字で末尾がチェックキャラクタのインタリーブド2 of 5 バーコードのみデコードします。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

## Matrix 2 of 5

工場出荷時設定に戻す



@M25DEF

**Restore the Factory Defaults of Matrix 2 of 5**

(Matrix 2 of 5の工場出荷時設定に戻す)

## Matrix 2 of 5を有効化/無効化



@M25ENA1

**\*\* Enable Matrix 2 of 5**

(Matrix 2 of 5を有効化)



@M25ENA0

**Disable Matrix 2 of 5**

(Matrix 2 of 5を無効化)



スキャナーがMatrix 2 of 5バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Matrix 2 of 5**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## Matrix 2 of 5の桁数を設定

Matrix 2 of 5の最小桁数と最大桁数の変更が行えます。これを行うと指定されていない桁数の読み取りは行えなくなります。



@M25MIN

### Set the Minimum Length

(最小長さ設定 初期設定：4)



@M25MAX

### Set the Maximum Length

(最大長さ設定 初期設定：80)

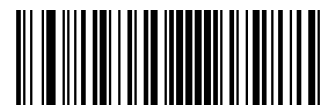


最小桁数が最大桁数より大きく設定されている場合、スキャナーは最小桁数または最大桁数のいずれかを持つMatrix 2 of 5バーコードしかデコードしません。最小桁数と最大桁数が同じ場合、その長さのMatrix 2 of 5しか読み取りません



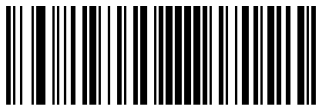
スキャナーが8～12文字のMatrix 2 of 5バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## チェックキャラクタ検証

チェックキャラクタはMatrix 2 of 5のオプションであり、最後の文字として追加できるデータの整合性検証使用の計算値です。

**Disable (無効化)** : スキャナーはMatrix 2 of 5をそのまま送信します。

**Do Not Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信しない)** : スキャナーは、Matrix 2 of 5の整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに対応しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

**Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信する)** : スキャナーは、Matrix 2 of 5の整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに準拠しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。

Matrix 2 of 5は文字数が必ず偶数になるため、チェックキャラクタを追加する際、最初の数字の前に0を追加する必要があります。チェックキャラクタはMatrix 2 of 5作成時に自動的に生成されます。



@M25CHK0

**\*\* Disable (無効化)**



@M25CHK1

**Do Not Transmit Check Character After Verification**  
(検証後にチェックキャラクタを送信しない)



@M25CHK2

**Transmit Check Character After Verification**  
(検証後にチェックキャラクタを送信する)



**Do Not Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信しない)** オプションが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短いMatrix 2 of 5バーコードはデコードされません (例えば、**Do Not Transmit Check Character After Verification**のオプションが有効で最小長さが4に設定されている場合、合計長さが4でチェックキャラクタを含むMatrix 2 of 5バーコードは読み取られません)。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## Code 39

工場出荷時設定に戻す



@C39DEF

**Restore the Factory Defaults of Code 39**  
(Code 39の工場出荷時設定に戻す)

## Code 39を有効化/無効化



@C39ENA1

**\*\* Enable Code 39**  
(Code 39を有効化)



@C39ENA0

**Disable Code 39**  
(Code 39を無効化)



スキャナーがCode 39バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Code 39**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## Code 39の桁数を設定

Code 39の最小桁数と最大桁数の変更が行えます。これを行うと指定されていない桁数の読み取りは行えなくなります。



@C39MIN

### Set the Minimum Length

(最小桁数設定 初期設定 : 1)



@C39MAX

### Set the Maximum Length

(最大長さ設定 初期設定 : 48)



最小桁数が最大桁数より大きく設定されている場合、スキャナーは最小桁数または最大桁数のいずれかを持つCode 39バーコードしかデコードしません。最小桁数と最大桁数が同じ場合、その長さのCode 39しか読み取りません



スキャナーが8～12 文字のCode 39バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup





#SETUPE1  
Enter Setup

## チェックキャラクタ検証

チェックキャラクタはCode 39のオプションであり、最後の文字として追加できるデータの整合性検証使用の計算値です。

**Disable（無効化）**：スキャナーはCode 39をそのまま送信します。

**Do Not Transmit Check Character After Verification（検証後にチェックキャラクタを送信しない）**：スキャナーは、Code 39の整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに対応しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

**Transmit Check Character After Verification（検証後にチェックキャラクタを送信する）**：スキャナーは、Code 39の整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに準拠しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。



@C39CHK0  
**\*\* Disable（無効化）**



@C39CHK1

**Do Not Transmit Check Character After Verification（検証後にチェックキャラクタを送信しない）**



@C39CHK2

**Transmit Check Character After Verification（検証後にチェックキャラクタを送信する）**



**Do Not Transmit Check Character After Verification（検証後にチェックキャラクタを送信しない）** オプションが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短いCode 39バーコードはデコードされません（例えば、**Do Not Transmit Check Character After Verification**のオプションが有効で最小長さが4に設定されている場合、合計長さが4でチェックキャラクタを含むCode 39バーコードは読み取られません）。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

### スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信

Code 39 は文字の先頭とストップキャラクタにアスタリスク(\*)を使用します。以下の適切なバーコードをスキャンしてスタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信するか選択することができます。



@C39TSC0

**\*\* Do Not Transmit Start/Stop Character**

(スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信しない)



@C39TSC1

**Transmit Start/Stop Character**

(スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信する)

### Code 39フルアスキーを有効化/無効化

スキャナーは以下の適切なバーコードをスキャンして全てのアスキーキャラクタを特定するよう設定できます。



@C39ASC0

**\*\* Disable Code 39 Full ASCII**

(Code 39フルアスキーを無効化)



@C39ASC1

**Enable Code 39 Full ASCII**

(Code 39フルアスキーを有効化)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## Codabar

工場出荷時設定に戻す



@CBADEF

**Restore the Factory Defaults of Codabar**  
(Codabarの工場出荷時設定に戻す)

## Codabarを有効化/無効化



@CBAENA1

**\*\* Enable Codabar**  
(Codabarを有効化)



@CBAENA0

**Disable Codabar**  
(Codabarを無効化)



スキャナーがCodabarバーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Codabar**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## Codabarの桁数を設定

Codabar最小桁数と最大桁数の変更が行えます。これを行うと指定されていない桁数の読み取りは行えなくなります。



@CBAMIN

### Set the Minimum Length

(最小長さ設定 初期設定 : 2)



@CBAMAX

### Set the Maximum Length

(最大長さ設定 初期設定 : 60)



最小桁数が最大桁数より大きく設定されている場合、スキャナーは最小桁数または最大桁数のいずれかを持つCodabarバーコードしかデコードしません。最小桁数と最大桁数が同じ場合、その長さのCodabarしか読み取りません



スキャナーが8～12文字のCodabarバーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## チェックキャラクタ検証

チェックキャラクタはCodabarのオプションであり、最後の文字として追加できるデータの整合性検証使用の計算値です。

**Disable（無効化）**：スキャナーはCodabarをそのまま送信します。

**Do Not Transmit Check Character After Verification（検証後にチェックキャラクタを送信しない）**：スキャナーは、Codabarの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに対応しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

**Transmit Check Character After Verification（検証後にチェックキャラクタを送信する）**：スキャナーは、Codabarの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに準拠しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。



@CBACHK0

**\*\* Disable（無効化）**



@CBACHK1

**Do Not Transmit Check Character After Verification**  
(検証後にチェックキャラクタを送信しない)



@CBACHK2

**Transmit Check Character After Verification**  
(検証後にチェックキャラクタを送信する)



**Do Not Transmit Check Character After Verification（検証後にチェックキャラクタを送信しない）** オプションが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短いCodabarバーコードはデコードされません（例えば、**Do Not Transmit Check Character After Verification**のオプションが有効で最小長さが4に設定されている場合、合計長さが4でチェックキャラクタを含むCodabarバーコードは読み取られません）。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

## スタートキャラクタ/ストップキャラクタ

以下の適切なバーコードをスキャンしてスタートキャラクタ/ストップキャラクタを設定後、送信するか選択することができます。



@CBATSC0

### **\*\* Do Not Transmit Start/Stop Character**

(スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信しない)



@CBATSC1

### **Transmit Start/Stop Character**

(スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信する)



@CBASCF0

### **\*\* ABCD/ABCD as the Start/Stop Character**

(ABCD/ABCDをスタートキャラクタ/ストップキャラクタに設定する)



@CBASCF1

### **ABCD/TN\*E as the Start/Stop Character**

(ABCD/TN\*Eをスタートキャラクタ/ストップキャラクタに設定する)



@CBASCF2

### **abcd/abcd as the Start/Stop Character**

(abcd/abcdをスタートキャラクタ/ストップキャラクタに設定する)



@CBASCF3

### **abcd/tn\*e as the Start/Stop Character**

(abcd/tn\*eをスタートキャラクタ/ストップキャラクタに設定する)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## Code 93

工場出荷時設定に戻す



@C93DEF

**Restore the Factory Defaults of Code 93**  
(Code 93の工場出荷時設定に戻す)

## Code 93を有効化/無効化



@C93ENA1

**Enable Code 93**  
(Code 93を有効化)



@C93ENA0

**\*\* Disable Code 93**  
(Code 93を無効化)



スキャナーがCode 93バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Code 93**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## Code 93の桁数を設定

Code 93の最小桁数と最大桁数の変更が行えます。これを行うと指定されていない桁数の読み取りは行えなくなります。



@C93MIN

### Set the Minimum Length

(最小長さ設定 初期設定 : 1)



@C93MAX

### Set the Maximum Length

(最大長さ設定 初期設定 : 48)



最小桁数が最大桁数より大きく設定されている場合、スキャナーは最小桁数または最大桁数のいずれかを持つCode 93バーコードしかデコードしません。最小桁数と最大桁数が同じ場合、その長さのCode 93バーコードしか読み取りません



スキャナーが8～12 文字のCode 93バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup





#SETUPE1  
Enter Setup

## チェックキャラクタ検証

チェックキャラクタはCode 93のオプションであり、最後の2文字として追加できるデータの整合性検証使用の計算値です。

**Disable (無効化)** : スキャナーはCode 93をそのまま送信します。

**Do Not Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信しない)** : スキャナーは、Code 93の整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに対応しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

**Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信する)** : スキャナーは、Code 93の整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに準拠しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。



@C93CHK0  
**Disable (無効化)**



@C93CHK1  
**\*\* Do Not Transmit Check Character After Verification**  
(検証後にチェックキャラクタを送信しない)



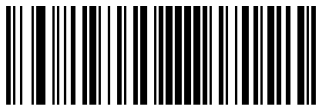
@C93CHK2  
**Transmit Check Character After Verification**  
(検証後にチェックキャラクタを送信する)



**Do Not Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信しない)** オプションが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短いCode 93バーコードはデコードされません (例えば、**Do Not Transmit Check Character After Verification**のオプションが有効で最小長さが4に設定されている場合、合計長さが4でチェックキャラクタを含むCode 93バーコードは読み取られません)。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

## GS1-128 (UCC/EAN-128)

工場出荷時設定に戻す



@GS1DEF

**Restore the Factory Defaults of GS1-128**  
(GS1-128の工場出荷時設定に戻す)

## GS1-128を有効化/無効化



@GS1ENA1

**\*\* Enable GS1-128**  
(GS1-128を有効化)



@GS1ENA0

**Disable GS1-128**  
(GS1-128を無効化)



スキャナーがGS1-128バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable GS1-128**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## GS1-128の桁数を設定

GS1-128の最小桁数と最大桁数の変更が行えます。これを行うと指定されていない桁数の読み取りは行えなくなります。



@GS1MIN

### Set the Minimum Length

(最小長さ設定 初期設定 : 1)



@GS1MAX

### Set the Maximum Length

(最大長さ設定 初期設定 : 48)



最小桁数が最大桁数より大きく設定されている場合、スキャナーは最小桁数または最大桁数のいずれかを持つGS1-128バーコードしかデコードしません。最小桁数と最大桁数が同じ場合、その長さのGS1-128バーコードしか読み取りません



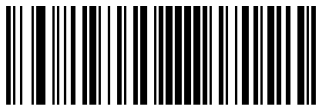
スキャナーが8～12文字のGS1-128バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

## GS1 Databar (RSS)

工場出荷時設定に戻す



@RSSDEF

**Restore the Factory Defaults of GS1 Databar**  
(GS1 Databarの工場出荷時設定に戻す)

## GS1 Databarを有効化/無効化



@RSSENA1

**\*\* Enable GS1 Databar**  
(GS1 Databarを有効化)



@RSSENA0

**Disable GS1 Databar**  
(GS1 Databarを無効化)



スキャナーが**GS1 Databar**バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable GS1 Databar**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0

Exit Setup



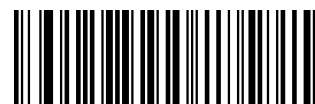
#SETUPE1  
Enter Setup

アプリケーション識別子 (01) を送信



@RSSTAI1

**Transmit Application Identifier “01”**  
(アプリケーション識別子 (01) を送信)



@RSSTAI0

**\*\*Do Not Transmit Application Identifier “01”**  
(アプリケーション識別子 (01) を送信しない)

## GS1 合成 (EAN・UCC 合成)

工場出荷時設定に戻す



@CPTDEF

**Restore the Factory Defaults of GS1 Composite**  
(GS1 合成の工場出荷時設定に戻す)

GS1合成を有効化/無効化



@CPTENA1

**Enable GS1 Composite**  
(GS1合成を有効化)



@CPTENA0

**\*\* Disable GS1 Composite**  
(GS1合成を無効化)

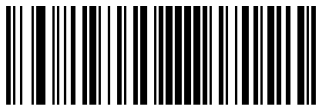


スキャナーが**GS1 Databar**バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable GS1 Databar**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

### UPC/EAN合成を有効化/無効化



@CPTUPC1

**Enable UPC/EAN Composite**

(UPC/EAN合成を有効化)



@CPTUPC0

**\*\* Disable UPC/EAN Composite**

(UPC/EAN合成を無効化)

### ISBN

工場出荷時設定に戻す



@ISBDEF

**Restore the Factory Defaults of ISBN**

(ISBNの工場出荷時設定に戻す)

### ISBNを有効化/無効化



@ISBENA1

**\*\*Enable ISBN (ISBNを有効化)**



@ISBENA0

**Disable ISBN (ISBNを無効化)**



スキャナーがISBNバーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、

**Enable ISBN**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

---

## ISBNフォーマットを設定



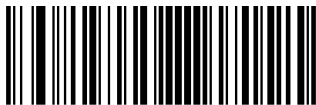
@ISBT101  
\*\* ISBN-10



@ISBT100  
ISBN-13



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

## ISSN

工場出荷時設定に戻す



@ISSDEF

**Restore the Factory Defaults of ISSN**

(ISSNの工場出荷時設定に戻す)

ISSNを有効化/無効化



@ISSENA1

**Enable ISSN (ISSNを有効化)**



@ISSENA0

**\*\*Disable ISSN (ISSNを無効化)**



スキャナーがISSNバーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、

**Enable ISSN** バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0

Exit Setup





#SETUPE1  
Enter Setup

## インダストリアル25 工場出荷時設定に戻す



@L25DEF

**Restore the Factory Defaults of Industrial 25**  
(インダストリアル25の工場出荷時設定に戻す)

## インダストリアル 25を有効化/無効化



@L25ENA1

**\*\*Enable Industrial 25**  
(インダストリアル 25を有効化)

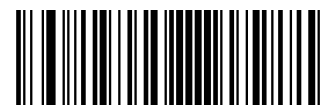


@L25ENA0

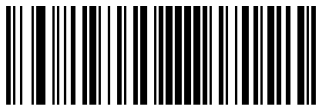
**Disable Industrial 25**  
(インダストリアル 25を無効化)



スキャナーがインダストリアル 25バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Industrial 25**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## インダストリアル25の桁数を設定

インダストリアル25の最小桁数と最大桁数の変更が行えます。これを行うと指定されていない桁数の読み取りは行えなくなります。



@L25MIN

### Set the Minimum Length

(最小桁数設定 初期設定 : 6)



@L25MAX

### Set the Maximum Length

(最大桁数設定 初期設定 : 48)



最小桁数が最大桁数より大きく設定されている場合、スキャナーは最小桁数または最大桁数のいずれかを持つインダストリアル25バーコードしかデコードしません。最小桁数と最大桁数が同じ場合、その長さのインダストリアル25バーコードしか読み取りません



スキャナーが8～12 文字のインダストリアル25バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## チェックキャラクタ検証

チェックキャラクタはインダストリアル 25バーコードのオプションであり、最後の文字として追加できるデータの整合性検証使用の計算値です。

**Disable（無効化）**：スキャナーはインダストリアル25バーコードをそのまま送信します。

**Do Not Transmit Check Character After Verification（検証後にチェックキャラクタを送信しない）**：スキャナーは、インダストリアル25バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに対応しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

**Transmit Check Character After Verification（検証後にチェックキャラクタを送信する）**：スキャナーは、インダストリアル25バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに準拠しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。



@L25CHK0

**\*\* Disable（無効化）**



@L25CHK1

**Do Not Transmit Check Character After Verification**  
(検証後にチェックキャラクタを送信しない)



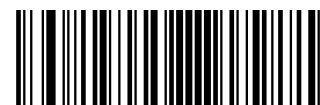
@L25CHK2

**Transmit Check Character After Verification**  
(検証後にチェックキャラクタを送信する)



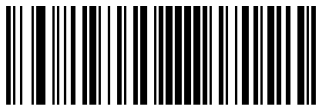
**Do Not Transmit Check Character After Verification（認証後チェックキャラクタを送信しない）**

オプションが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短いインダストリアル25バーコードはデコードされません（例えば、**Do Not Transmit Check Character After Verification**のオプションが有効で最小長さが4に設定されている場合、合計長さが4でチェックキャラクタを含むインダストリアル25バーコードは読み取られません）。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

## PDF417

工場出荷時設定に戻す



@PDFDEF

**Restore the Factory Defaults of PDF417**

(PDF417の工場出荷時設定に戻す)

## PDF417を有効化/無効化



@PDFENA1

**\*\* Enable PDF417 (PDF417を有効化)**



@PDFENA0

**Disable PDF417 (PDF417を無効化)**



スキャナーがPDF417バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable PDF417**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## PDF417の桁数を設定

PDF417の最小桁数と最大桁数の変更が行えます。これを行うと指定されていない桁数の読み取りは行えなくなります。



@PDFMIN

### Set the Minimum Length

(最小設定 初期設定 : 1)



@PDFMAX

### Set the Maximum Length

(最大設定 初期設定 : 2710)



スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のPDF417バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



スキャナーが8～12 文字のPDF417バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

## PDF417ツインコード

PDF417ツインコードは 垂直または水平に並んだ2つのPDF417バーコードです。2つのPDF417バーコードは必ず通常または白黒反転したPDF417バーコードのどちらかになります。これらは類似した規格で互いに密接している必要があります。

PDF417ツインコードには3種類の読み取りオプションがあります。

◇ **Single PDF417 Only** (いずれかのPDF417のみ) : いずれか一方のPDF417バーコードのみ読み取ります。

◇ **Twin PDF417 Only**(両方のPDF417のみ) : PDF417バーコードの両方を読み取ります。

◇ **Both Single & Twin** (いずれか一方&両方) : 両方のPDF417バーコードを読み込みます。成功すると、両方のPDF417バーコードを送信し、失敗した場合、いずれか一方のPDF417バーコードのみ送信します。



@PDFDOU0

**\*\* Single PDF417 Only**

(いずれかのPDF417のみ)



@PDFDOU1

**Twin PDF417 Only**

(両方のPDF417のみ)



@PDFDOU2

**Both Single & Twin**

(いずれか一方&両方)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## 白黒反転PDF417 コード

通常バーコード: 背景の色が明るく、バーの色が暗いです。

白黒反転バーコード: 背景の色が暗く、バーの色が明るいです。



@PDFINV0

**\*\* Decode Regular PDF417 Barcodes Only**  
(通常のPDF417バーコードのみデコード)



@PDFINV2

**Decode Both**  
(両方デコード)

## 文字エンコード



@PDFENC0

**\*\* Default Character Encoding**  
(デフォルトの文字エンコード)



@PDFINV1

**Decode Inverse PDF417 Barcodes Only**  
(白黒反転のPDF417バーコードのみデコード)

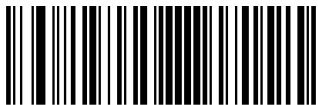


@PDFENC1

**UTF-8**



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

## PDF417 ECI出力



@PDFECI0

**Disable PDF417 ECI Output**  
(PDF417 ECI出力を無効化)



@PDFECI1

**\*\* Enable PDF417 ECI Output**  
(PDF417 ECI出力を有効化)



#SETUPE0

Exit Setup





#SETUPE1  
Enter Setup

## Micro PDF417

工場出荷時設定に戻す



@MPDDEF

**Restore the Factory Defaults of Micro PDF417**  
(Micro PDF417の工場出荷時設定に戻す)

Micro PDF417を有効化/無効化



@MPDENA1

**Enable Micro PDF417**  
(Micro PDF417を有効化)



@MPDENA0

**\*\* Disable Micro PDF417**  
(Micro PDF417を無効化)



スキャナーがMicro PDF417バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Micro PDF417**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## Micro PDF417の桁数を設定

Micro PDF417の最小桁数と最大桁数の変更が行えます。これを行うと指定されていない桁数の読み取りは行えなくなります。



@MPDMIN

### Set the Minimum Length

(最小設定 初期設定 : 1)



@MPDMAX

### Set the Maximum Length

(最大設定 初期設定 : 366)



長さは最大長さより大きくすることはできません。特定の長さのMicro PDF417バーコードのみ読み取りたい場合、最小長さと最大長さを同じ値に設定してください。

## Example

スキャナーが8～12 文字のMicro PDF417バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## QR Code

工場出荷時設定に戻す



@QRCDEF

**Restore the Factory Defaults of QR Code**  
(QRコードの工場出荷時設定に戻す)

## QRコードを有効化/無効化



@QRCENA1

**\*\* Enable QR Code**  
(QRコードを有効化)



@QRCENA0

**Disable QR Code**  
(QRコードを無効化)



スキャナーがQRコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable QR Code**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## QRコードの桁数を設定

QRコードの最小桁数と最大桁数の変更が行えます。これを行うと指定されていない桁数の読み取りは行えなくなります。



@QRCMIN

### Set the Minimum Length

(最小設定 初期設定 : 1)



@QRCMAX

### Set the Maximum Length

(最大設定 初期設定 : 7089)



スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のQRコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



## スキャナーが8～12 文字のQRコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## QR ツインコード

QRツインコードは 垂直または水平に並んだ2つのQRコードです。2つのQRコードは必ず通常または白黒反転したQRコードのどちらかになります。これらは類似した規格で互いに密接している必要があります。

QRツインコードには3種類の読み取りオプションがあります。

**Single QR Only** (いずれかのQRコードのみ) : いずれか一方のQRコードのみ読み取ります。

**Twin QR Only**(両方のQRコードのみ) : 左 (上) のQRコードから右 (下) へ読み込みます。

**Both Single & Twin** (いずれか一方&両方) : 両方のQRコードを読み込みます。成功すると、両方のQRコードを送信し、失敗すると、いずれか一方のQRコードのみ送信します。



@QRCD0U0

**\*\* Single QR Only**

(いずれかのQRコードのみ)



@QRCD0U1

**Twin QR Only**

(両方のQRコードのみ)



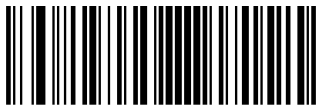
@QRCD0U2

**Both Single & Twin**

(いずれか一方&両方)



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

### 白黒反転QRコード

通常バーコード: 背景の色が明るく、バーの色が暗いです。白黒反転バーコード: 背景の色が暗く、バーの色が明るいです。



@QRCINV0

**\*\* Decode Regular QR Barcodes Only**  
(通常のQRコードのみデコード)



@QRCINV2

**Decode Both**  
(両方デコード)

### 文字エンコード



@QRCENC0

**\*\* Default Character Encoding**  
(デフォルトの文字エンコード)



@QRCINV1

**Decode Inverse QR Barcodes Only**  
(白黒反転のQRコードのみデコード)



@QRCENC1

**UTF-8**



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## QR ECI出力



@QRCECI0

**Disable QR ECI Output**  
(QR ECI出力を無効化)



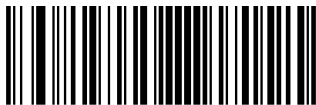
@QRCECI1

**\*\* Enable QR ECI Output**  
(QR ECI出力を有効化)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

## Micro QR コード

工場出荷時設定に戻す



@MQRDEF

**Restore the Factory Defaults of Micro QR**

(Micro QRコードの工場出荷時設定に戻す)

## Micro QRコードを有効化/無効化



@MQRENA1

**\*\* Enable Micro QR**

(Micro QRコードを有効化)



@MQRENA0

**Disable Micro QR**

(Micro QRコードを無効化)



スキャナーがMicro QRコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Micro QR**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0

Exit Setup





#SETUPE1  
Enter Setup

## Micro QRコードの桁数を設定

Micro QRコードの最小桁数と最大桁数の変更が行えます。これを行うと指定されていない桁数の読み取りは行えなくなります。



@MQRMIN

### Set the Minimum Length

(最小設定 初期設定 : 1)



@MQRMAX

### Set the Maximum Length

(最大設定 初期設定 : 35)

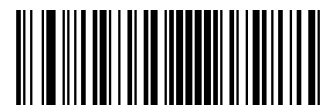


最小長さは最大長さより大きくすることはできません。特定の長さのMicro QRコードのみ読み取りたい場合、最小長さと最大長さを同じ値に設定してください。

## Example

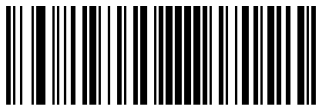
スキャンが8~12文字のMicro QRコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup



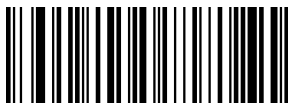
#SETUPE1

Enter Setup

---

## Aztec

工場出荷時設定に戻す



@AZTDEF

**Restore the Factory Defaults of Aztec Code**  
(Aztecコードの工場出荷時設定に戻す)

Aztecコードを有効化/無効化



@AZTENA1

**Enable Aztec Code**

(Aztecコードを有効化)



@AZTENA0

**\*\* Disable Aztec Code**

(Aztecコードを無効化)



スキャナーがAztec コードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Aztec Code**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## Aztecコードの長さを設定

Aztecの最小桁数と最大桁数の変更が行えます。これを行うと指定されていない桁数の読み取りは行えなくなります。



@AZTMIN

### Set the Minimum Length

(最小設定 初期設定 : 1)



@AZTMAX

### Set the Maximum Length

(最大設定 初期設定 : 3832)



最小長さは最大長さより大きくすることはできません。特定の長さのAztecコードのみ読み取りたい場合、最小長さと最大長さを同じ値に設定してください。

## Example

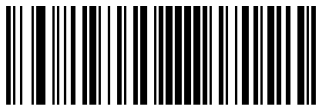
スキャナーが8～12 文字のAztecコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

## 画像内の複数のバーコードを読み取り

3種類のモードがあります。

**Mode 1:** 1つのバーコードのみ読み取ります。

**Mode 2:** 決められた数のバーコードのみ読み取ります。

**Mode 3:** Mode1とMode2の組み合わせです。まず決められた数のバーコードを読み取り、失敗した場合は、1つのバーコードを読み取ります。



@AZTMOD1

**\*\* Mode 1**



@AZTMOD2

**Mode 2**



@AZTMOD3

**Mode 3**

## 読み取るバーコード数を設定



@AZTMUL1

**\*\* 1**



@AZTMUL2

**2**



@AZTMUL3

**3**



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup



@AZTMUL4

4



@AZTMUL5

5



@AZTMUL6

6



@AZTMUL7

7



@AZTMUL8

8

文字エンコード



@AZTENC0

**\*\* Default Character Encoding**  
(デフォルトの文字エンコード)



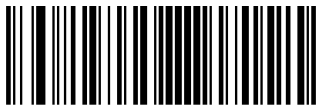
@AZTENC1

UTF-8



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

### Aztec ECI出力



@AZTECI0

**Disable Aztec ECI Output**  
(Aztec ECI出力を無効化)



@AZTECI1

**\*\* Enable Aztec ECI Output**  
(Aztec ECI出力を有効化)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## Data Matrix

工場出荷時設定に戻す



@DMCDEF

**Restore the Factory Defaults of Data Matrix**  
(データマトリックスの工場出荷時設定に戻す)

データマトリックスを有効化/無効化



@DMCENA1

**\*\* Enable Data Matrix**

(データマトリックスを有効化)



@DMCENA0

**Disable Data Matrix**

(データマトリックスを無効化)



スキャンがデータマトリックスバーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Data Matrix**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0  
Exit Setup

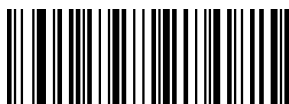


#SETUPE1

Enter Setup

### Data Matrixの桁数を設定

データマトリックスコードの最小桁数と最大桁数の変更が行えます。これを行うと指定されていない桁数の読み取りは行えなくなります。



@DMCMIN

#### Set the Minimum Length

(最小設定 初期設定 : 1)



@DMCMAX

#### Set the Maximum Length

(最大設定 初期設定 : 3116)



最小長さは最大長さより大きくすることはできません。特定の長さのデータマトリックスコードのみ読み取りたい場合、最小長さと最大長さを同じ値に設定してください。



スキャンが8～12文字のデータマトリックスコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup





#SETUPE1  
Enter Setup

## データマトリックスツインコード

データマトリックスツインコードは 垂直または水平に並んだ2つのデータマトリックスコードです。2つのデータマトリックスコードは必ず通常または白黒反転したデータマトリックスコードのどちらかになります。これらは類似した規格で互いに密接している必要があります。

データマトリックスツインコードには3種類の読み取りオプションがあります。

**Single Data Matrix Only** (いずれかのデータマトリックスコードのみ) : いずれか一方のデータマトリックスコードのみ読み取ります。

**Twin Data Matrix Only**(両方のデータマトリックスコードのみ) : 左 (上) のデータマトリックスコードから右 (下) へ読み込みます。

**Both Single & Twin** (いずれか一方&両方) : 両方のデータマトリックスコードを読み込みます。成功すると、両方のデータマトリックスコードを送信し、失敗した場合、いずれか一方のデータマトリックスコードのみ送信します。



@DMCDOU0

### \*\* Single Data Matrix Only

(いずれかのデータマトリックスコードのみ)



@DMCDOU1

### Twin Data Matrix Only

(両方のデータマトリックスコードのみ)



@DMCDOU2

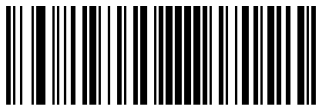
### Both Single & Twin

(いずれか一方&両方)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

## 長方形バーコード

データマトリックスコードは2種類の形式があります。

正方形バーコードは縦と横の長さが同じバーコードです（例：10×10、12×12.... 144×144）。

長方形バーコードは縦と横の長さが違うバーコードです（例：6×16、6×14...14×22）。



@DMCREC1

**\*\* Enable Rectangular Barcode**

（長方形バーコードを有効化）



@DMCREC0

**Disable Rectangular Barcode**

（長方形バーコードを無効化）

## 白黒反転データマトリックスコード

通常バーコード: 背景の色が明るく、バーの色が暗いです。

白黒反転バーコード: 背景の色が暗く、バーの色が明るいです。



@DMCINV0

**\*\* Decode Regular Data Matrix Barcodes Only**

（通常のデータマトリックスコードのみデコード）



@DMCINV1

**Decode Inverse Data Matrix Barcodes Only**

（白黒反転のデータマトリックスコードのみデコード）



@DMCINV2

**Decode Both（両方デコード）**



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## 文字エンコード



@DMCENC0

**\*\* Default Character Encoding**  
(デフォルトの文字エンコード)



@DMCENC1

**UTF-8**

## データマトリックスECI出力



@DMCEC10

**Disable Data Matrix ECI Output**  
(データマトリックスECIを無効化)



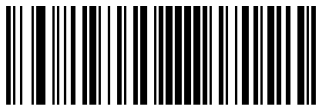
@DMCEC11

**\*\* Enable Data Matrix ECI Output**  
(データマトリックスECIを有効化)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

## Maxicode

工場出荷時設定に戻す



@MXCDEF

**Restore the Factory Defaults of Maxicode**  
(Maxicodeの工場出荷時設定に戻す)

Maxicodeを有効化/無効化



@MXCENA1

**Enable Maxicode**  
(Maxicodeを有効化)



@MXCENA0

**\*\* Disable Maxicode**  
(Maxicodeを無効化)



スキャナーが Maxicode バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Maxicode** バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## Maxicodeの桁数を設定

Maxicodeの最小桁数と最大桁数の変更が行えます。これを行うと指定されていない桁数の読み取りは行えなくなります。



@MXCMIN  
**Set the Minimum Length**  
(最小設定 初期設定 : 1)



@MXCMAX  
**Set the Maximum Length**  
(最大設定 初期設定 : 150)



スキャンが最小長さ以上、最大長さ以下の **Maxicode** バーコードのみデコードするように設定できます。  
これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

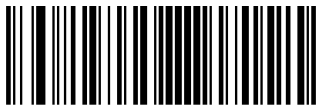


スキャンが **8~12 文字** の **Maxicode** バーコードをデコードするように設定する方法

1. Enter Setup バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

郵便バーコード

工場出荷時設定に戻す



@JPPDEF

**Restore the Factory Defaults of Japan Post**  
(郵便バーコードの工場出荷時設定に戻す)

郵便バーコードを有効化/無効化



@JPPENA1

**Enable Japan Post**  
(郵便バーコードを有効化)



@JPPENA0

**\*\* Disable Japan Post**  
(郵便バーコードを無効化)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## 第6章 データフォーマット

### 概要

データフォーマットを使用して、スキャナーの出力を変更できます。例えば、データフォーマットを使用してバーコードデータの特定の位置に文字を挿入したり、バーコードデータをスキャンする際に特定の文字を抑制/置換/送信したりすることができます。

通常、バーコードをスキャンすると自動的に出力されますが、フォーマットを作成した場合、データを出力する際、フォーマットのプログラミング内で「送信」コマンド（本章の「送信コマンド」の項目を参照）を使用する必要があります。複数のデータフォーマットをスキャナーにプログラムできます。作成可能なデータフォーマットの最大サイズは2048文字です。初期設定では、データフォーマットは無効ですので、必要に応じて有効にしてください。データフォーマットの設定を変更後、各フォーマットをクリアして工場出荷状態に戻したい場合は、以下の**Default Data Format**（データフォーマットを初期化）コードをスキャンしてください。



**\*\*Default Data Format**（データフォーマットを初期化）

### データフォーマットを追加

データフォーマットは通常はバーコードデータの編集に使用されます。データフォーマットを作成する際、データフォーマットの4つのラベル（**Format\_0**、**Format\_1**、**Format\_2**、**Format\_3**）から1つを選択し、データフォーマットの適用範囲（バーコードタイプやデータ長さなど）を指定し、フォーマットコマンドを含める必要があります。同一のラベルで複数のデータフォーマットを作成できます。スキャンしたデータがデータフォーマットの要件と一致しない場合、非一致エラー音（ブザー）が鳴ります（非一致エラーブザーが**ON**の場合）。

データフォーマットのプログラムはバーコードによるプログラミングとシリアルコマンドによるプログラミングの2種類があります。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## バーコードによるプログラミング

ここでは、特定のバーコードをスキャンしてデータフォーマットをプログラムする方法を説明します。無関係なバーコードをスキャンしたり、設定手順に従わなかったりすると、プログラミングに失敗します。データフォーマットの作成に必要な英数字のバーコードは、付録の「英数字バーコード」の項を参照してください。

**Step 1: Enter Setup** バーコードをスキャンします。

**Step 2: Add Data Format (データフォーマットを追加)** バーコードをスキャンします。



@DFMADD

**Add Data Format (データフォーマットを追加)**

**Step 3:** ラベル (Format\_0、Format\_1、Format\_2、Format\_3のいずれか) を選択します。

数字のバーコード**0~3**のいずれかをスキャンして、このデータフォーマットのFormat\_0~3のいずれかのラベルを付けます。

**Step 4:** フォーマットのコマンドタイプを選択します。

使用するフォーマットコマンドの種類を指定します。英数字バーコードの**6**を読み取ると、フォーマットコマンドタイプ**6**が選択されます。詳細は、本章の「フォーマットコマンドタイプ 6」の項目を参照してください。

**Step 5:** インターフェースのタイプを設定します。

各インターフェースに対応する**999**をスキャンします。

**Step 6:** シンボロジーIDを設定します。

付録の「シンボロジーID」の項目を参照し、データフォーマットを適用したいシンボロジーのIDを確認します。シンボロジーIDに該当する**3**つの英数字バーコードをスキャンします。すべてのシンボロジーのデータフォーマットを作成したい場合は、**999**をスキャンします。

**Step 7:** データの長さを設定します。

このシンボロジーで許容されるデータの長さを指定します。データの長さを表す**4**つの英数字バーコードをスキャンします。**9999**は、すべての長さに対応するユニバーサルナンバーです。例えば、**32**文字の場合は「**0032**」と入力します。



#SETUPE0

Exit Setup





#SETUPE1  
Enter Setup

**Step 8:** フォーマットコマンドを入力します。

本章の「フォーマットコマンドタイプ6」の項を参照してください。データ編集に必要なコマンドを表す英数字のバーコードをスキャンします。例えば、コマンドが**F141**の場合は、**F141**をスキャンします。

**Step 9:** 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンしてデータフォーマットにほそんします。

## Example

フォーマットコマンドタイプ6を使用して、**Format\_0**のデータフォーマットをプログラムします。Code 128には10文字を適用し、すべての文字の後に「A」を付けて送信します。

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Add Data Format**バーコードをスキャンします。
3. 「0」バーコードをスキャンします。
4. 「6」バーコードをスキャンします。
5. 「9」バーコードを3回スキャンします。
6. 「002」バーコードをスキャンします。
7. 「0010」バーコードをスキャンします。
8. 英数字バーコード「**F141**」をスキャンします。
9. **Save**バーコードをスキャンします。

プログラミングプロセスを最適化するため、データフォーマットを作成するためのコマンド（例：

**@DFMADD069990020010F141;**）を入力して、バッチバーコードを生成することもできます。バッチバーコードの使用方法については、第9章の「バッチバーコードの使用」を参照してください。

ラベルを共有する複数のデータフォーマットを作成する場合、フォーマットは

**@DFMADD069990029999F141|069990039999F142|069990049999F143;**のように、バッチコマンドの中で縦棒（|）でお互い区切られています。

## シリアルコマンドによるプログラミング

データフォーマットは、ホスト機器から受信するシリアルコマンド（HEX）でも作成できます。全てのコマンドは大文字で入力する必要があります。

構文は以下の要素で構成されています。

**Prefix（プリフィックス）:** "~<SOH>0000" (HEX: 7E 01 30 30 30 30)、6文字。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

**Storage type (ストレージタイプ)** : 「@」 (HEX: 40) または 「#」 (HEX: 23)、1文字。「@」はスキャナーの電源を切っても再起動しても失われない永久的な設定を意味し、「#」はスキャナーの電源を切ったり再起動したりしたら失われる一時的な設定を意味します。

**Add Data Format Command (データフォーマットコマンドを追加)** : “DFMADD” (HEX: 44 46 4D 41 44 44)、6文字。

**Data format label (データフォーマットラベル)** : 「0」 (HEX:30)、「1」 (HEX:31)、「2」 (HEX:32)、「3」 (HEX:33)のうちのいずれか1文字です。「0」、「1」、「2」、「3」はそれぞれ、Format\_0、Format\_1、Format\_2、Format\_3を表します。

**Formatter command type (フォーマットコマンドタイプ)** : 「6」 (HEX: 36)、1文字。

**Interface type (インターフェースタイプ)** : 「999」 (HEX: 39 39 39)、3文字。

**Symbology ID Number (シンボロジーID)** : データフォーマットを適用したいシンボロジーのID (3文字)。999は全てのシンボロジーに対応します。

**Data length (データ長さ)** : このシンボロジーで許容されるデータの長さ (4文字)。9999 は全ての長さに対応します。例えば、32文字の場合は「0032」と入力します。

**Formatter commands (フォーマットコマンド)** : データの編集に使用するコマンド文字列です。詳細は、本章の「フォーマットのコマンドタイプ6」の項を参照してください。

**Suffix (サフィックス)** : “;<ETX>” (HEX: 3B 03)、2文字。

例: フォーマットコマンドタイプ6を使用して、Format\_0データフォーマットをプログラムすると、Code 128には10文字が適用され、「A」の前の全ての文字が送信されます。

入力: 7E 01 30 30 30 30 40 44 46 4D 41 44 44 30 36 39 39 39 30 30 33 39 39 39 39 46 31 34 31 3B 03

(~<SOH>0000@DFMADD069990020010F141;<ETX>)

レスポンス: 02 01 30 30 30 30 40 44 46 4D 41 44 44 30 36 39 39 39 30 30 33 39 39 39 39 46 31 34 31 06 3B 03

(<STX><SOH>0000@DFMADD069990020010F141<ACK>;<ETX>)

ラベルを共有する複数のデータフォーマットを作成する場合は、以下のようにシリアルコマンドの縦棒 (|) でフォーマットを区切ります。

例: ~<SOH>0000@DFMADD069990020010F141|069990039999F142|069990049999F143;<ETX>



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## データフォーマットを有効化/無効化

データフォーマットが無効である場合、バーコードデータはプリフィックスとサフィックスを含み読み込みデータとしてホスト機器へ出力されます。



@DFMENAO

### \*\* Disable Data Formatter (データフォーマットを無効化)

作成したデータフォーマット確認のためデータをリクエストすることができます。以下の設定はご利用のデータフォーマットに適用されます。

**Enable Data Formatter, Required, Keep Prefix/Suffix (データフォーマットを有効、必要、プリフィックス・サフィックスを保持)** : データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、適宜修正され、プリフィックスとサフィックスとともに出力されます (プリフィックスとサフィックスが有効な場合)。データフォーマットの要件に適合しないデータは、エラーを示すブザーがなり (非適合エラー通知ブザーがONの場合)、そのバーコードのデータは送信されません。

**Enable Data Formatter, Required, Drop Prefix/Suffix (データフォーマットを有効、必要、プリフィックス・サフィックスを喪失)** : データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、適宜修正され、プリフィックスやサフィックスなしで出力されます (プリフィックスやサフィックスを有効化している場合も同様)。データフォーマットの要件に適合しないデータは、エラーを示すブザーがなり (非適合エラー通知ブザーがONの場合)、そのバーコードのデータは送信されません。

**Enable Data Formatter, Not Required, Keep Prefix/Suffix (データフォーマットを有効、不要、プリフィックス・サフィックスを保持)** : データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、適宜修正され、プリフィックスとサフィックスとともに出力されます (プリフィックスとサフィックスが有効な場合)。データフォーマットの要件に適合しないバーコードデータは、プリフィックスとサフィックスとともに、読み取りデータとして送信されます (プリフィックスとサフィックスが有効な場合)。

**Enable Data Formatter, Not Required, Drop Prefix/Suffix (データフォーマットを有効、不要、プリフィックス・サフィックスを喪失)** : データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、適宜修正され、プリフィックスやサフィックスなしで出力されます (プリフィックスやサフィックスを有効化している場合も同様)。データフォーマットの要件に適合しないバーコードデータは、プリフィックスとサフィックスとともに、読み取りデータとして送信されます (プリフィックスとサフィックスが有効な場合)。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---



@DFMENA1

**Enable Data Formatter, Required, Keep Prefix/Suffix**

(データフォーマットを有効、必要、プリフィックス・サフィックスを保持)



@DFMENA3

**Enable Data Formatter, Not Required, Keep Prefix/Suffix**

(データフォーマットを有効、不要、プリフィックス・サフィックスを保持)



@DFMENA2

**Enable Data Formatter, Required, Drop Prefix/Suffix**

(データフォーマットを有効、必要、プリフィックス・サフィックスを喪失)



@DFMENA4

**Enable Data Formatter, Not Required, Drop Prefix/Suffix**

(データフォーマットを有効、不要、プリフィックス・サフィックスを喪失)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## 非適合エラー通知ブザー

**Non-Match Error Beep**（非適合エラー通知ブザー）がONの場合、データフォーマットの要件と一致しないバーコードに遭遇した場合、スキャナーはエラーを通知するブザーを鳴らします。



@DFMTON0

**Non-Match Error Beep Off**（非適合エラー通知ブザー オフ）



@DFMTON1

**\*\* Non-Match Error Beep On**（非適合エラー通知ブザー オン）

## データフォーマット選択

データフォーマットを有効化後、以下の適切なバーコードをスキャンして使用したいデータフォーマットを選択できます。

初期設定はFormat\_0です。



@DFMUSE0

**\*\* Format\_0**



@DFMUSE1

**Format\_1**



@DFMUSE2

**Format\_2**



@DFMUSE3

**Format\_3**



#SETUPE0

**Exit Setup**



#SETUPE1

Enter Setup

---

## シングルスキャンでデータフォーマットを切り替え

シングルスキャンでデータフォーマットを切り替えることができます。次のバーコードは、ここで選択したデータ形式でスキャンされ、その後、上で選択した形式に戻ります。

例えば、Format\_3として保存したデータ形式を使用するようにスキャナーを設定したとします。以下の**Single Scan - Format\_1** バーコードをスキャンすると、トリガーを1回引くだけでFormat\_1に切り替えることができます。次にスキャンされるバーコードは、Format\_1を使用し、その後Format\_3に戻ります。

注意：この設定は、スキャナーを電源オフ、デバイスを電源オフまたは再起動すると失われます。



@DFMSIN0

**Single Scan - Format\_0** (シングルスキャンでFormat\_0へ切り替え)



@DFMSIN1

**Single Scan - Format\_1** (シングルスキャンでFormat\_1へ切り替え)



@DFMSIN2

**Single Scan - Format\_2** (シングルスキャンでFormat\_2へ切り替え)



@DFMSIN3

**Single Scan - Format\_3** (シングルスキャンでFormat\_3へ切り替え)



#SETUPE0

Exit Setup



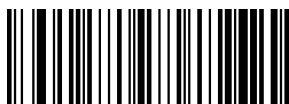
#SETUPE1  
Enter Setup

## データフォーマットをクリア

スキャナーから作成したデータフォーマットを削除する方法は2種類あります。

データフォーマットを1件削除: **Clear One (1件クリア)** バーコード、英数字バーコード(0-3)、**Save**バーコードをスキャンします。例えば、**Format\_2**を削除する場合、**Clear One**バーコード、英数字バーコード「2」、**Save**バーコードをスキャンします。

データフォーマットを全て削除: **Clear All (全てクリア)** バーコードをクリアします。



@DFMCAL

**Clear All (全てクリア)**



@DFMCLR

**Clear One (1件クリア)**

## データフォーマットをクエリ

以下の適切なバーコードをスキャンすると、お客様が作成した、またはメーカーが初期設定したデータフォーマットの情報を得ることができます。例えば、本章の「データフォーマットの追加」の項目の例に従って**Format\_0**を追加した場合、**Query Current Data Formats (現在のデータフォーマットをクエリ)**のバーコードをスキャンすると、**Data Format0:069990020010F141;**結果が得られます。



@DFMQCU

**Query Current Data Formats**

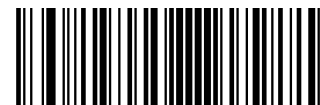
(現在のデータフォーマットをクエリ)



@DFMQFA

**Query Preset Data Formats**

(プリセットのデータフォーマットをクエリ)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## 第7章 プリフィックス & サフィックス

### 概要

1次元バーコードには、数字、文字、記号などのデータが含まれています。2次元バーコードは、漢字やその他のマルチバイト文字など、より多くのデータを含むことができます。しかし、実際の利用において、バーコードを短く柔軟性を保つために、バーコードの種類、データ取得時間、区切り文字など、必要なすべての情報を持たず、持つべきではありません。

上記の要件を満たす方法に、プリフィックスとサフィックスがあります。これらは、元のバーコードデータを維持したまま、追加、削除、変更することができます。



バーコード処理プロセス

1. データフォーマットでデータ編集
2. プリフィックス/サフィックスを追加
3. データをパッキング
4. ストップキャラクタを追加

### グローバル設定

#### 全てのプリフィックス/サフィックスを有効化/無効化

**Disable All Prefix/Suffixes (プリフィックス/サフィックスを無効化)** : プリフィックス/サフィックスを追加せずにバーコードデータを送信します。

**Enable All Prefixes/Suffixes (プリフィックス/サフィックスを有効化)** : Code ID プリフィックス、AIM ID プリフィックス、カスタムプリフィックス/サフィックス、ストップキャラクタをバーコードデータに付加して送信することを許可します。



@APSENA0

**\*\* Disable All Prefixes/Suffixes (プリフィックス/サフィックスを無効化)**



@APSENA1

**Enable All Prefixes/Suffixes (プリフィックス/サフィックスを有効化)**



#SETUPE0

Exit Setup





#SETUPE1  
Enter Setup

## プリフィックスシーケンス



@PRESEQ0

**\*\* Code ID+ Custom +AIM ID**



@PRESEQ1

**Custom + Code ID + AIM ID**

## カスタムプリフィックス

### カスタムプリフィックスを有効化/無効化

カスタムプリフィックスを有効化すると、データに10文字を超えないユーザー定義のプリフィックスを付加することができます。例えば、カスタムプリフィックスが「AB」で、バーコードデータが「123」の場合、ホスト機器は「AB123」を受信します。



@CPRENA0

**\*\* Disable Custom Prefix**

(カスタムプリフィックスを無効化)



@CPRENA1

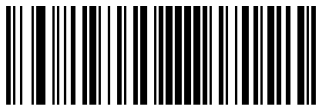
**Enable Custom Prefix**

(カスタムプリフィックスを有効化)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

## カスタムプリフィックスを設定

カスタムプリフィックスを設定する場合、**Set Custom Prefix**バーコードをスキャンし、次に必要なプリフィックスのHEX値に対応する数字バーコードをスキャンし、**Save**バーコードをスキャンして完了です。

**注意：**カスタムプリフィックスは、10文字を超えることはできません。



@CPRSET

**Set Custom Prefix** (カスタムプリフィックスを設定)

**E**  
xample

カスタムプリフィックスを「**CODE**」(HEX: 0x43/0x4F/0x44/0x45)に設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set Custom Prefix**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある数字バーコード「4」、「3」、「4」、「F」、「4」、「4」、「4」、「5」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Enable Custom Prefix**バーコードをスキャンします。
6. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## AIM IDプリフィックス

AIM (国際自動認識工業会) ID は、シンボロジー識別子を定義します (詳細は、付録の「AIM ID 表」を参照してください)。AIM IDプリフィックスが有効な場合、スキャナーはデコード後、スキャンデータの前にシンボロジー識別子を追加します。



@AIDENA0

**\*\* Disable AIM ID Prefix**  
(AIM ID Prefixを無効化)



@AIDENA1

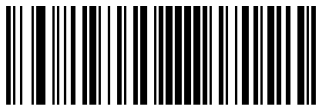
**Enable AIM ID Prefix**  
(AIM ID Prefixを有効化)



AIM ID はユーザーがプログラムできません。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

## Code IDプリフィックス

Code IDは、バーコードの種類を識別するためにも使用できます。AIM IDとは異なり、Code IDはユーザーがプログラムできます。CodeIDは、1文字または2文字の英字で構成されています。



@CIDENA0

**\*\* Disable Code ID Prefix**

(Code IDプリフィックスを無効化)



@CIDENA1

**Enable Code ID Prefix**

(Code IDプリフィックスを有効化)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## 全てのデフォルトのCode IDを復元

デフォルトのCode IDについては、付録の「Code ID表」の項目を参照してください。.



@CIDDEF

**Restore All Default Code IDs** (全てのデフォルトのCode IDを復元)

## Code IDを変更

Code IDを変更し、各シンボロジーのデフォルトのCode IDを復元方法については、以下の例を参照してください。

### F417 Code ID を「p」 (HEX: 0x70)に変更する方法

**E**  
*xample*

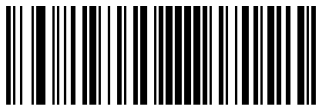
1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Modify PDF417 Code ID** バーコードをスキャンします。
3. 「英数字バーコード」セクションにある数字バーコード「7」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。

### 各シンボロジーのCode IDをデフォルトに戻す方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Restore All Default Code IDs**バーコードをスキャンします。
3. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

1次元シンボロジーのCode IDを変更



@CID002

**Modify Code 128 Code ID**  
(Code 128 のCode IDを変更)



@CID004

**Modify EAN-8 Code ID**  
(EAN-8のCode IDを変更)



@CID003

**Modify GS1-128 (UCC/EAN-128) Code ID**  
(GS1-128 (UCC/EAN-128) のCode IDを変更)



@CID005

**Modify EAN-13 Code ID**  
(EAN-13 のCode IDを変更)



@CID006

**Modify UPC-E Code ID**  
(UPC-E のCode IDを変更)



@CID007

**Modify UPC-A Code ID**  
(UPC-A のCode IDを変更)



@CID008

**Modify Interleaved 2 of 5 Code ID**  
(インタリーブド2 of 5 のCode IDを変更)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup



@CID009  
**Modify ITF-14 Code ID**  
(ITF-14 のCode IDを変更)



@CID010  
**Modify ITF-6 Code ID**  
(ITF-6 のCode IDを変更)



@CID011  
**Modify Matrix 2 of 5 Code ID**  
(Matrix 2 of 5 のCode IDを変更)



@CID013  
**Modify Code 39**  
(Code 39のCode IDを変更)



@CID015  
**Modify Codabar Code ID**  
(Codabar のCode IDを変更)



@CID017  
**Modify Code 93 Code ID**  
(Code 93のCode IDを変更)



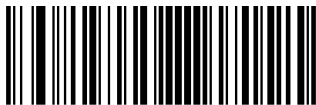
@CID019  
**Modify China Post 25 Code ID**  
(China Post 25のCode IDを変更)



@CID020  
**Modify AIM 128 Code ID**  
(AIM 128 のCode IDを変更)



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---



@CID023

**Modify ISSN Code ID**  
(ISSN のCode IDを変更)



@CID025

**Modify Industrial 25 Code ID**  
(インダストリアル25 のCode IDを変更)



@CID027

**Modify Plessey Code ID**  
(Plessey のCode IDを変更)



@CID029

**Modify MSI Plessey Code ID**  
(MSI Plessey のCode IDを変更)



@CID021

**Modify ISBT 128 Code ID**  
(ISBT 128の Code IDを変更)



@CID024

**Modify ISBN Code ID**  
(ISBN のCode IDを変更)



@CID026

**Modify Standard 25 Code ID**  
(スタンダード25 のCode IDを変更)



@CID028

**Modify Code 11 Code ID**  
(Code 11の Code IDを変更)



#SETUPE0

Exit Setup





#SETUPE1  
Enter Setup

## 2次元シンボロジーのCode IDを変更



@CID032

**Modify PDF417 Code ID**  
(PDF417の Code IDを変更)



@CID033

**Modify QR Code ID**  
(QRコードの Code IDを変更)



@CID034

**Modify Aztec Code ID**  
(Aztec のCode IDを変更)



@CID035

**Modify Data Matrix Code ID**  
(データマトリックスのCode IDを変更)



@CID036

**Modify Maxicode Code ID**  
(Maxicode Code IDを変更)



@CID039

**Modify Chinese Sensible Code ID**  
(Chinese Sensible のCode IDを変更)



@CID041

**Modify GM Code ID**  
(GM コードのCode IDを変更)



@CID042

**Modify Micro PDF417 Code ID**  
(Micro PDF417の Code IDを変更)



@CID043

**Modify Micro QR Code ID**  
(Micro QRコードの Code IDを変更)



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## カスタムサフィックス

### カスタムサフィックスを有効化/無効化

カスタムサフィックスを有効にすると、データに10文字を超えないユーザー定義のサフィックスを付加することができます。例えば、カスタムサフィックスが「AB」で、バーコードデータが「123」の場合、ホスト機器は「123AB」を受信します。



@CSUENA0

**\*\* Disable Custom Suffix**

(カスタムサフィックスを無効化)



@CSUENA1

**Enable Custom Suffix**

(カスタムサフィックスを有効化)

### カスタムサフィックスを設定

カスタムサフィックスを設定する場合、**Set Custom Suffix**バーコードをスキャンし、次に必要なサフィックスのHEX値に対応する数字バーコードをスキャンし、**Save**バーコードをスキャンして完了です。

注意：カスタムサフィックスは、10文字を超えることはできません。



@CSUSET

**Set Custom Suffix** (カスタムサフィックスを設定)**E**  
xample

カスタムサフィックスを「CODE」(HEX: 0x43/0x4F/0x44/0x45)に設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set Custom Suffix** バーコードをスキャンします。
3. 「英数字バーコード」セクションにある数字バーコード「4」、「3」、「4」、  
「F」、「4」、「4」、「4」「5」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Enable Custom Suffix** バーコードをスキャンします。
6. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## データパッキング

### 概要

データパッキングは、送信前にデータをパックしてほしいという特定のユーザーのために設計されています。データパッキングはデータフォーマットに影響を与えるため、この機能が必要ない場合は無効にすることをお勧めします。

### データパッキングオプション

**Disable Data Packing (データパッキングを無効化)** : 読み取ったデータを生のフォーマット (パケットなし) で送信します。

**Enable Data Packing, Format 1 (データパッキング、フォーマット1を有効化)** : 以下で定義されるパケットフォーマット1を伴うデコードされたデータを送信します。

パケットフォーマット1: [STX + ATTR + LEN] + [AL\_TYPE + DATA] + [LRC]

STX : 0x02

ATTR : 0x00

LEN : バーコードデータの長さを、0x0000 (0) から 0xFFFF (65535) までの 2 バイトで表示。

AL\_TYPE: 0x36

DATA : バーコードの生データ。

LRC : チェックデジット

LRCの計算アルゴリズム : 計算シーケンス

0xFF+LEN+AL\_TYPE+DATA : 計算方法はXOR、1バイト毎に計算。

### Enable Data Packing, Format 2: (データパッキング、フォーマット2を有効化)

読み取ったデータを以下のパケットフォーマット2で送信します。

パケットフォーマット 2: [STX + ATTR + LEN] + [AL\_TYPE] + [Symbology\_ID + DATA] + [LRC]

STX: 0x02

ATTR: 0x00

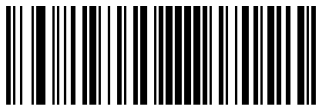
LEN : バーコードデータの長さを、0x0000 (0) から 0xFFFF (65535) までの2バイトで表示。

AL\_TYPE: 0x3B

Symbology\_ID: シンボロジーのID番号、1バイト。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

DATA: 生バーコードデータ

LRC: チェックデジット

LRLRC計算アルゴリズム：計算シーケンス：

0xFF+LEN+AL\_TYPE+Symbology\_ID+DATA、計算方法はXOR、1バイト毎に計算。



@PACKAG0

**\*\* Disable Data Packing**

(データパッキングを無効化)



@PACKAG1

**Enable Data Packing, Format 1**

(データパッキング フォーマット1を有効化)



@PACKAG2

**Enable Data Packing, Format 2**

(データパッキング フォーマット2を有効化)

## ストップキャラクタサフィックス

ストップキャラクタサフィックスを有効化/無効化

キャリッジリターン(CR)やキャリッジリターン/ラインフィードペア(CRLF)などのストップキャラクタは、データの終わりを示すためにのみ使用することができ、その後には何も加えることができません。



@TSUENA0

**Disable Terminating Character Suffix** (ストップキャラクタサフィックスを無効化)



@TSUENA1

**\*\* Enable Terminating Character Suffix** (ストップキャラクタサフィックスを有効化)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## ストップキャラクタサフィックスを設定

ストップキャラクタサフィックスを設定する場合、**Set Terminating Character Suffix**（ストップキャラクタサフィックスを設定）バーコードをスキャンし、次に必要なストップキャラクタサフィックスのHEX値に対応する数字バーコードをスキャンし、**Save**バーコードをスキャンして完了です。

注意：ストップキャラクタのサフィックスは2文字を超えることはできません。



@TSUSET

### Set Terminating Character Suffix

（ストップキャラクタサフィックスを設定）



@TSUSET0D

**\*\* Set Terminating Character to CR (0x0D)**  
（ストップキャラクタをCR (0x0D)に設定）



@TSUSET0D0A

### Set Terminating Character to CRLF (0x0D,0x0A)

（ストップキャラクタをCRLF (0x0D,0x0A)に設定）

**E**  
xample

ストップキャラクタサフィックスを「0x0A」に設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set Terminating Character Suffix** バーコードをスキャンします。
3. 「英数字バーコード」セクションにある数字バーコード「0」、「A」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Enable Terminating Character Suffix** バーコードをスキャンします。
6. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## 第 8 章 バッチプログラミング

### 概要

バッチプログラミングでは、コマンドのバッチを1つのバッチバーコードに統合することができます。

バッチプログラミングのルールを以下に示します。

1. コマンドフォーマット：コマンド+パラメータ値。
2. 各コマンドはセミコロン (;) で終了します。コマンドとその終端のセミコロンの間にはスペースがありません。
3. バーコード生成ソフトウェアを使用して、2次元 バッチバーコードを生成します。

例：Normal Illumination, Sense Mode, Decode Session Timeout = 2s, Disable Interleaved 2 of 5のバッチバーコードを作成

1. コマンドを入力します。

@ILLSCN1;SCNMOD2;ORTSET2000;I25ENA0;

2. バーコードを生成します。

上記の構成でスキャナーを設置する場合、**Enable Batch Barcode** (バッチバーコードを有効化) バーコードをスキャンしてから、生成されたバッチバーコードをスキャンします。



@BATCHS

**Enable Batch Barcode** (バッチバーコードを有効化)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## バッチコマンドを作成

バッチコマンドには、複数の個別コマンドを含めることができ、各コマンドはセミコロン (;) で終了します。

詳しくは、第3章の「プログラミングコマンドの使用」の項目を参照してください。

## バッチバーコードを作成

バッチバーコードは、PDF417、QRコード、データマトリックスのいずれかの形式で作成できます。

例 : **Normal Illumination, Sense Mode, Decode Session Timeout = 2s, Disable Interleaved 2 of 5**のバッチバーコードを生成

1. 以下のコマンドを入力します。

@ILLSCN1;SCNMOD2;ORTSET2000;I25ENA0;

2. PDF417バッチバーコードを生成します。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---

## バッチバーコードを使用

バッチバーコードを使用する際、以下のバーコードをスキャンします(上記の例を使用)。



@SETUPE1

Enter Setup (設定開始)



@BATCHS

Enable Batch Barcode (バッチバーコードを有効化)



Batch Barcode (バッチバーコード)



@SETUPE0

Exit Setup (設定終了)



#SETUPE0

Exit Setup





#SETUPE1  
Enter Setup

## 付録

### 英数字バーコード

0~9



@DIGIT0

0



@DIGIT1

1



@DIGIT2

2



@DIGIT3

3



@DIGIT4

4

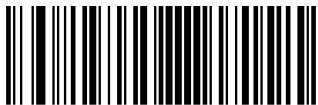


@DIGIT5

5



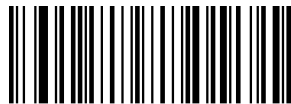
#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

---



@DIGIT6

6



@DIGIT7

7



@DIGIT8

8



@DIGIT9

9

A~F



@DIGITA

A



@DIGITB

B



@DIGITC

C



@DIGITD

D



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

---



@DIGITE  
E



@DIGITF  
F



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## バーコードを保存/キャンセル

数字のバーコードを読み取った後、データを保存するためには、**Save (保存)** バーコードをスキャンする必要があります。

間違った桁をスキャンした場合は、**Cancel (キャンセル)** バーコードをスキャンして設定を最初からやり直すか、**Delete the Last Digit (最後の桁を削除)** バーコードをスキャンして正しい桁をスキャンするか、または**Delete All Digits (全ての桁を削除)** バーコードをスキャンして希望する桁をスキャンすることができます。

例えば、**Maximum Length**のバーコードと数字のバーコード「1」、「2」、「3」を読み取った後、スキャンした場合

◇ **Delete the Last Digit (最後の桁を削除)** :最後の桁の「3」が削除されます。

◇ **Delete All Digits (全ての桁を削除)** :数字「123」が全て削除されます。

◇ **Cancel (キャンセル)** :最大長さの設定がキャンセルされます。また、スキャナーはまだセットアップモードのままです。



@DIGSAV

Save (保存)



@DIGCAN

Cancel (キャンセル)



@DIGDEL

Delete the Last Digit (最後の桁を削除)



@DIGDAL

Delete All Digits (全ての桁を削除)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

## 工場出荷時設定表

パラメータ	工場出荷時設定	備考
<b>システム設定</b>		
バーコードプログラミング	Disabled (Exit Setup)	
プログラミングバーコードデータ	Do not transmit	
イルミネーションLED	On	
エイミング	On	
電源ブザー	On	
グッドリードブザー	On	
グッドリードブザー持続時間	Medium (80ms)	
グッドリードブザーの周波数	2620Hz	
グッドリードブザーの音量	Loud	
グッドリードバイブレーション	Off	
グッドリードバイブレーション持続時間	300ms	
スキャンモード	Level Mode	
デコードセッションタイムアウト	3,000ms.	1-3,600,000ms
手振れ補正タイムアウト (センスモード)	200ms	0-3,000ms
読取りタイムアウト	Disabled	
	1500ms	1-3,600,000ms
読取りタイムアウトリセット	Off	
グッドリードディレイ	Off	
	500ms	
画像デコードタイムアウト	500ms	1-3,000ms
GS1アプリケーション識別子 (AI) を括弧で囲む	Off	
GS1 アプリケーション識別子 (AI)を送信	Disable	
GS1-128(UCC/EAN-128)	Transmit GS1 Application Identifier (GS1 AIS)	
GS1 Databar(RSS)	Transmit GS1 Application Identifier (GS1 AIS)	
GS1 合成(EAN UCC 合成)	Transmit GS1 Application Identifier (GS1 AIS)	
GS1 QR	Transmit GS1 Application Identifier (GS1 AIS)	
GS1 データマトリックス	Transmit GS1 Application Identifier (GS1 AIS)	
GS1 チェックキャラクタを送信	Transmit	
GS1-128(UCC/EAN-128)	Transmit GS1 Check Character	
GS1 Databar(RSS)	Transmit GS1 Check Character	
GS1 合成(EAN UCC 合成)	Transmit GS1 Check Character	



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

## Enter Setup

GS1 QR	Transmit GS1 Check Character	
GS1 データマトリックス	Transmit GS1 Check Character	
感度	Medium Sensitivity	
トリガーコマンド	Disabled	
バーコード別スキャン設定	Normal	
バーコード読み取り	On	
デコード範囲	Whole Area Decoding	
画像反転	Do Not Flip	
読み取りエラーメッセージ	Off	
	NG	
初期設定インターフェース	Bluetooth HID Keyboard	
<b>USBインターフェース</b>		
USB 国別キーボード	US keyboard	USB HID キーボード
不明な文字の警告ブザー	Off	USB HID キーボード
Emulate ALT+キーパッド	Off	USB HID キーボード
コードページ	Code Page 1252 (West European Latin)	USB HID キーボード
Unicodeエンコード	Off	USB HID キーボード
先行ゼロ付きキーボードエミュレーション	On	USB HID キーボード
ファンクションキーマッピング	Disable	USB HID キーボード
キーストローク間の遅延	Long Delay (40ms)	USB HID キーボード
Caps Lock	Caps Lock off Japanese Keyboard	USB HID キーボード
大文字/小文字の切り替え	No Case Conversion	USB HID キーボード
テンキーをエミュレート 1	Off	USB HID キーボード
テンキーをエミュレート 2	Off	USB HID キーボード
ファストモード	Off	USB HID キーボード
ポーリングレート	4ms	USB HID キーボード
<b>ワイヤレス通信</b>		
バッチモード	Off	
同じバーコードの保存防止	Off	
バッチモード送信ディレイ	Off	
フラッシュメモリに保存したデータをクエリ/クリア	Off	
バッチモード用送信メッセージ完了	Off	
スキャナー時間	Setting scanner time	



#SETUPE0

## Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

タイムスタンプ	Off	
タイムスタンプフォーマット	Format 1 (YYYY/MM/DD,HH:MM:SS)	
自動電源オフ	30 minutes	
シンボロジー		
<b>Code 128</b>		
Code 128	Enabled	
最大長さ	48	
最小長さ	1	
<b>EAN-8</b>		
EAN-8	Enabled	
チェックキャラクタ	Transmit	
2桁のアドオンコード	Disabled	
5桁のアドオンコード	Disabled	
アドオンコードをリクエスト	Not Required	
EAN-8からEAN-13へ変換	Disabled	
<b>EAN-13</b>		
EAN-13	Enabled	
チェックキャラクタ	Transmit	
2桁のアドオンコード	Disabled	
5桁のアドオンコード	Disabled	
アドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	
290で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	
378また379で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	
414また419で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	
434または439で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	
977で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	
978で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	
979で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	
<b>UPC-E</b>		



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

## Enter Setup

<b>UPC-E</b>	Enabled	
UPC-E0	Enabled	
UPC-E1	Disable	
チェックキャラクタ	Transmit	
2桁のアドオンコード	Disabled	
5桁のアドオンコード	Disabled	
アドオンコードをリクエスト	Not Required	
プリアンブルキャラクタを送信	System Character	
UPC-E からUPC-Aへ変換	Disabled	
<b>UPC-A</b>		
UPC-A	Enabled	
チェックキャラクタ	Transmit	
2桁のアドオンコード	Disabled	
5桁のアドオンコード	Disabled	
アドオンコードをリクエスト	Not Required	
プリアンブルキャラクタを送信	Country Code & System Character	
<b>クーポンコード</b>		
拡張クーポンコード付きUPC-A/EAN-13	Off	
クーポンGS1 DataBar出力	Off	
<b>インタリーブド 2 of 5</b>		
インタリーブド 2 of 5	Enabled	
最大長さ	80	
最小長さ	6	
チェックキャラクタ検証	Disabled	
<b>ITF-14</b>		
ITF-14	Disabled	
<b>ITF-6</b>		
ITF-6	Disabled	
<b>Matrix 2 of 5</b>		
Matrix 2 of 5	Enabled	
最大長さ	80	
最小長さ	4	No less than 4
チェックキャラクタ検証	Disable	
<b>Code 39</b>		
Code 39	Enabled	



#SETUPE0

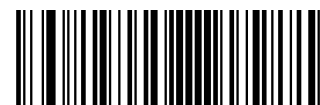
## Exit Setup



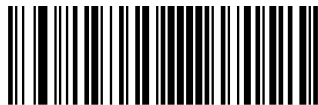


#SETUPE1  
Enter Setup

最大長さ	48	
最小長さ	1	
チェックキャラクタ検証	Disabled	
スタートキャラクタ/ストップキャラクタ	Do not transmit	
Code 39 アスキー	Disabled	
Code 32 (イタリア製菓業界用コード)	Disabled	
Code 32 プリフィックス	Disabled	
Code 32 スタートキャラクタ/ストップ キャラクタ	Do not transmit	
Code 32 チェックキャラクタ	Do not transmit	
<b>Codabar</b>		
Codabar	Enabled	
最大長さ	60	
最小長さ	2	
チェックキャラクタ検証	Disabled	
スタートキャラクタ/ストップキャラクタ	Do not transmit	
	ABCD/ABCD	All capital
<b>Code 93</b>		
Code 93	Disabled	
最大長さ	48	
最小長さ	1	
チェックキャラクタ検証	Do Not Transmit Check Character After Verification	
<b>China Post 25</b>		
China Post 25	Disabled	
最大長さ	48	
最小長さ	1	
チェックキャラクタ検証	Disabled	
<b>UCC/EAN-128</b>		
UCC/EAN-128	Enabled	
最大長さ	48	
最小長さ	1	
<b>GS1 Databar</b>		
GS1 Databar	Enabled	
アプリケーション識別子「01」	Transmit	
<b>EAN・UCC 合成</b>		
GS1 合成	Disabled	



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

## Enter Setup

UPC/EAN 合成	Disabled	
<b>Code 11</b>		
Code 11	Disabled	
最大長さ	48	
最小長さ	4	No less than 4
チェックキャラクタ検証	One Check Character, MOD11	
チェックキャラクタ	Transmit Check Character	
<b>ISBN</b>		
ISBN	Enabled	
ISBNフォーマットを設定	ISBN-10	
<b>ISSN</b>		
ISSN	Disabled	
<b>インダストリアル 25</b>		
インダストリアル 25	Enabled	
最大長さ	48	
最小長さ	6	No less than 4
チェックキャラクタ検証	Disabled	
<b>スタンダード 25</b>		
スタンダード 25	Enabled	
最大長さ	48	
最小長さ	6	No less than 4
チェックキャラクタ検証	Disabled	
<b>Plessey</b>		
Plessey	Disabled	
最大長さ	48	
最小長さ	4	No less than 4
チェックキャラクタ検証	Disabled	
<b>MSI-Plessey</b>		
MSI-Plessey	Disabled	
最大長さ	48	
最小長さ	4	No less than 4
チェックキャラクタ検証	One Check Character, MOD10	
チェックキャラクタ	Transmit	
<b>AIM 128</b>		
AIM 128	Disabled	
最大長さ	48	
最小長さ	1	



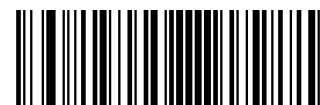
#SETUPE0

## Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

<b>ISBT 128</b>		
ISBT 128	Disabled	
<b>PDF417</b>		
PDF417	Enabled	
最大長さ	2710	
最小長さ	1	
PDF417 ツインコード	Single PDF417 Only	
白黒反転PDF417 コード	Decode Regular PDF417 Barcodes Only	
文字エンコード	Default Character Encoding	
PDF417 ECI出力	Enabled	
<b>Micro PDF 417</b>		
Micro PDF417	Disabled	
最大長さ	366	
最小長さ	1	
<b>QR コード</b>		
QR コード	Enabled	
最大長さ	7089	
最小長さ	1	
QR ツインコード	Single QR Only	
白黒反転QRコード	Decode Regular QR Barcodes Only	
文字エンコード	Default Character Encoding	
QR ECI 出力	Enabled	
<b>Micro QR コード</b>		
Micro QR コード	Enable	
最大長さ	35	
最小長さ	1	
<b>Aztec</b>		
Aztec コード	Disabled	
最大長さ	3832	
最小長さ	1	
画像内の複数のバーコードを読み取り	Mode 1	
文字エンコード	Default Character Encoding	
Aztec ECI 出力	Enable	
<b>データマトリックス</b>		
データマトリックス	Enabled	
最大長さ	3116	



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

## Enter Setup

最小長さ	1	
データマトリックス ツインコード	Single Data Matrix Only	
長方形バーコード	Enabled	
白黒反転データマトリックスコード	Decode Regular Data Matrix Barcodes Only	
文字エンコード	Default Character Encoding	
Data Matrix ECI 出力	Enabled	
<b>Maxicode</b>		
Maxicode	Disable	
最大長さ	150	
最小長さ	1	
<b>Chinese Sensible コード</b>		
Chinese Sensible コード	Disable	
最大長さ	7827	
最小長さ	1	
Chinese Sensible Code ツインコード	Single Chinese Sensible Code Only	
白黒反転Chinese Sensible コード	Decode Regular Chinese Sensible Code Only	
<b>USPS Postnet</b>		
USPS Postnet	Disabled	
チェックキャラクタ	Transmit	
<b>USPS Intelligent Mail</b>		
USPS Intelligent Mail	Disabled	
<b>Royal Mail</b>		
Royal Mail	Disabled	
<b>USPS Planet</b>		
USPS Planet	Disabled	
チェックキャラクタ	Transmit	
<b>KIX Post</b>		
KIX Post	Disabled	
<b>Australian Postal</b>		
Australian Postal	Disabled	
郵便バーコード		
郵便バーコード	Disabled	
<b>GM Code</b>		
GM Code	Disable	
最大長さ	2751	
最小長さ	1	



#SETUPE0

## Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

データフォーマット		
データフォーマット	Disabled	
データフォーマット選択	Format_0	
非適合エラー通知ブザー	On	
プリフィックス & サフィックス		
全てのプリフィックス/サフィックス	Disabled	
プリフィックスシーケンス	Code ID+ Custom +AIM ID	
カスタムプリフィックス	Disabled	
AIM ID プリフィックス	Disabled	
Code ID プリフィックス	Disabled	
カスタムサフィックス	Disabled	
データパッキング	Disable Data Packing	
ストップキャラクタサフィックス	Enable, <CR> (0x0D)	



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## AIM ID表

シンボロジ ー	AIM ID	可能なAIM ID 修飾 (m)
Code128	]C0	
GS1-128 (UCC/EAN-128)	]C1	
EAN-8	]E4	
アドオンコード付き EAN-8	]E3	
EAN-13	]E0	
アドオンコード付き EAN-13	]E3	
UPC-E	]E0	
アドオンコード付き UPC-E	]E3	
UPC-A	]E0	
アドオンコード付き UPC-A	]E3	
インタリーブド 2 of 5	]Im	0、1、3
ITF-14	]Im	1、3
ITF-6	]Im	1、3
Deutsche 14 Deutsche 12	]X0	
Matrix 2 of 5	]X0	
Code 39	]Am	0、1、3、4、5、7
Codabar	]Fm	0、2、4
Code 93	]G0	
China Post 25	]X0	
AIM 128	]C2	
ISBT 128	]C4	
ISSN	]X0	
ISBN	]X0	
インダストリアル 25	]S0	
スタンダード 25	]R0	
Plessey	]P0	
Code 11	]Hm	0、1、3
MSI Plessey	]Mm	0、1
GS1 合成	]em	0-3
GS1 Databar (RSS)	]e0	



#SETUPE0

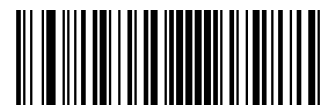
Exit Setup



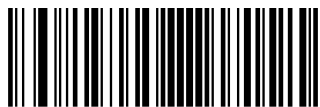
#SETUPE1  
Enter Setup

PDF417	]Lm	0-2
QRコード	]Qm	0-6
Aztec	]zm	0-9、A-C
データマトリックス	]dm	0-6
Maxicode	]Um	0-3
Chinese Sensible Code	]X0	
GMコード	]gm	(0~9)
Micro PDF417	]L0	
Micro QRコード	]Q1	
USPS Postnet	]X0	
USPS Intelligent Mail	]X0	
Royal Mail	]X0	
USPS Planet	]X0	
KIX Post	]X0	
Australian Postal	]X0	
郵便バーコード	]X0	

注意: 「m」は AIM修飾子の文字を表しています。ISO/IEC 15424:2008 情報技術 - 自動認識およびデータキャプチャ技術 - AIM修飾文字詳細のためのデータキャリア識別子（シンボロジー修飾子含む）。



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

**Code ID表**

シンボロジ ー	Code ID
Code128	j
GS1-128 (UCC/EAN-128)	j
EAN-8	d
EAN-13	d
UPC-E	c
UPC-A	c
インタリーブド 2 of 5	e
ITF-14	e
ITF-6	e
Deutsche 14	w
Deutsche 12	l
Matrix 2 of 5	v
Code 39	b
Codabar	a
Code 93	i
China Post 25	X
AIM 128	X
ISBT 128	X
ISSN	g
ISBN	B
インダストリアル25	l
スタンダード 25	f
Plessey	n
Code 11	H
MSI Plessey	m
GS1 合成	y
GS1 Databar (RSS)	R
PDF417	r
QR コード	s
Aztec	z
データマトリックス	u
MaxiCode	x



#SETUPE0

Exit Setup



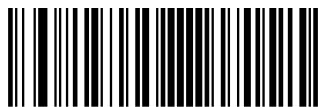


#SETUPE1  
Enter Setup

Chinese Sensibleコード	h
GM コード	x
Micro PDF417	R
Micro QRコード	X
USPS Postnet	P
USPS Intelligent Mail	M
Royal Mail	x
USPS Planet	L
KIX Post	K
Australian Postal	A
郵便バーコード	J



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## シンボロジーID表

シンボロジー	ID
Code 128	002
GS1-128 (UCC/EAN-128)	003
EAN-8	004
EAN-13	005
UPC-E	006
UPC-A	007
インタリーブド 2 OF 5	008
ITF-14	009
ITF-6	010
Matrix 2 of 5	011
Code 39	013
Codabar	015
Code 93	017
China Post 25	019
AIM 128	020
ISBT 128	021
ISSN	023
ISBN	024
インダストリアル25	025
スタンダード25	026
Plessey	027
Code11	028
MSI-Plessey	029
GS1 合成	030
GS1 Databar (RSS)	031
PDF417	032
QR コード	033
Aztec	034
データマトリックス	035
Maxicode	036
Chinese Sensible コード	039
Deutsche 14	128



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

Deutsche 12	129
GM コード	040
Micro PDF417	042
Micro QRコード	043
USPS Postnet	096
USPS Intelligent Mail	097
Royal Mail	098
USPS Planet	099
KIX Post	100
Australian Postal	101
郵便バーコード	102



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## ASCII 表

Hex	Dec	記号
00	0	NUL (NUL文字)
01	1	SOH (ヘッダ開始)
02	2	STX (テキストの開始)
03	3	ETX (テキストの終わり)
04	4	EOT (送信の終了)
05	5	ENQ (問い合わせ)
06	6	ACK (確認応答)
07	7	BEL (ベル)
08	8	BS (バックスペース)
09	9	HT (水平タブ)
0a	10	LF (ラインフィード)
0b	11	VT (垂直タブ)
0c	12	FF (フォームフィード)
0d	13	CR (キャリッジリターン)
0e	14	SO (シフトアウト)
0f	15	SI (シフトイン)
10	16	DLE (データリンクエスケープ)
11	17	DC1 (XON) (デバイスコントロール1)
12	18	DC2 (デバイスコントロール2)
13	19	DC3 (XOFF) (デバイスコントロール3)
14	20	DC4 (デバイスコントロール4)
15	21	NAK (否定応答)
16	22	SYN (同期アイドル)
17	23	ETB (トランスブロックの終了)
18	24	CAN (キャンセル)
19	25	EM (エンドオブメディア)
1a	26	SUB (サブスティテュート)
1b	27	ESC (エスケープ)
1c	28	FS (ファイルセパレータ)
1d	29	GS (グループセパレータ)



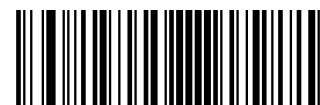
#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1  
Enter Setup

Hex	Dec	記号
1e	30	RS (送信要求)
1f	31	US (ユニットセパレーター)
20	32	SP (スペース)
21	33	! (エクスクラメーションマーク)
22	34	" (ダブルクォーテーション)
23	35	# 数字記号
24	36	\$ (ドル記号)
25	37	% (パーセント)
26	38	& (アンド記号)
27	39	(シングルクォート)
28	40	( (左/開始括弧)
29	41	) (右/閉じ括弧)
2a	42	* (アスタリスク)
2b	43	+ (プラス)
2c	44	,(コンマ)
2d	45	- (マイナス/ダッシュ)
2e	46	. (ドット)
2f	47	/ (前スラッシュ)
30	48	0
31	49	1
32	50	2
33	51	3
34	52	4
35	53	5
36	54	6
37	55	7
38	56	8
39	57	9
3a	58	: (コロン)
3b	59	; (セミコロン)
3c	60	< (不等号<)
3d	61	= (等号)



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

Hex	Dec	記号
3e	62	> (不等号>)
3f	63	? (疑問符)
40	64	@ (アットマーク)
41	65	A
42	66	B
43	67	C
44	68	D
45	69	E
46	70	F
47	71	G
48	72	H
49	73	I
4a	74	J
4b	75	K
4c	76	L
4d	77	M
4e	78	N
4f	79	O
50	80	P
51	81	Q
52	82	R
53	83	S
54	84	T
55	85	U
56	86	V
57	87	W
58	88	X
59	89	Y
5a	90	Z
5b	91	[ (左/ブラケット)
5c	92	\ (バックスラッシュ)
5d	93	] (右/閉じブラケット)



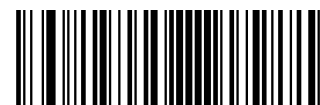
#SETUPE0

Exit Setup

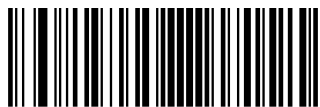


#SETUPE1  
Enter Setup

Hex	Dec	記号
5e	94	^ (キャレット/サーカムフレックス)
5f	95	_ (アンダースコア)
60	96	' (グレイヴ・アクセント)
61	97	a
62	98	b
63	99	c
64	100	d
65	101	e
66	102	f
67	103	g
68	104	h
69	105	i
6a	106	j
6b	107	k
6c	108	l
6d	109	m
6e	110	n
6f	111	o
70	112	p
71	113	q
72	114	r
73	115	s
74	116	t
75	117	u
76	118	v
77	119	w
78	120	x
79	121	y
7a	122	z
7b	123	{ (左括弧)
7c	124	(垂直棒)
7d	125	} (右括弧)
7e	126	~ (チルト)
7f	127	DEL (Delete)



#SETUPE0  
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

## Unicodeキーマップ

6E	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	7A	7B	7C	7D	7E					
01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	0D	0F	4B	50	55	5A	5F	64	69
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	1A	1B	1C	1D	4C	51	56	5B	60	65	6A
1E	1F	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	2B					5C	61	66	
2C	2E	2F	30	31	32	33	34	35	36	37	39			53			5D	62	67	6C
3A	3B	3C	3D					3E	3F	38	40	4F	54	59	63	68				

アメリカ式キーボード (104 キー)

6E	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	7A	7B	7C	7D	7E	•	•	•		
01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	0D	0F	4B	50	55	5A	5F	64	69
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	1A	1B	1C	2B	4C	51	56	5B	60	65	6A
1E	1F	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	1D					5C	61	66	
2C	2D	2E	2F	30	31	32	33	34	35	36	37	39		53			5D	62	67	6C
3A	3B	3C	3D					3E	3F	38	40	4F	54	59	63	68				

ヨーロッパ式キーボード (105キー)



#SETUPE0

Exit Setup



